

南相馬市 住民意向調査 報告書

平成29年3月

復興庁
福島県
南相馬市

南相馬市 住民意向調査

報告書

目 次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の職業	13
3-1-2 震災発生当時の住居形態	14
3-2 将来の意向	15
3-2-1 現在の住まい	15
3-2-2 今後の定住先	16
3-2-3 南相馬市への帰還意向	17
3-2-4 定住先に住みたい（住んでいる）時期	21
3-2-5 定住先に住みたい時期の理由	22
3-2-6 現時点で今後の定住先について判断できない理由	23
3-2-7 南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由	25
3-3 全世帯員の意向	27
3-3-1 続柄	27
3-3-2 性別	28
3-3-3 年齢	29
3-3-4 今後の住まいの意向	30
3-3-5 住みたい時期	31

3-4	意見・要望	32
IV	参考資料	45
4-1	使用調査票	47

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、南相馬市民の現在の状況や今後の帰還時期、帰還の判断に必要な条件、市外に居住地を得た方等について把握し、今後の諸施策を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	南相馬市
(2) 調査対象と標本数	避難指示が解除された地域に住民登録していた世帯の代表者 3,746 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 28 年 11 月 21 日（月）～平成 28 年 12 月 5 日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、南相馬市
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 2,407 世帯（有効回収率 64.3%）

1-5 報告書の見方

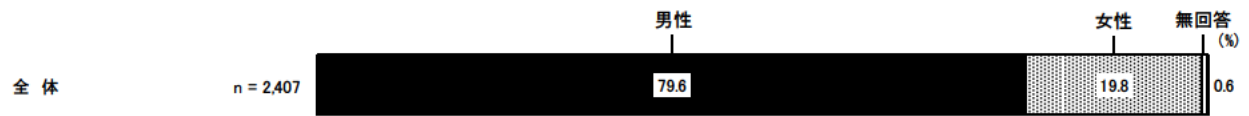
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、年齢別及び震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が 30 を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

(1) 性別

<図表2-1-1 性別>

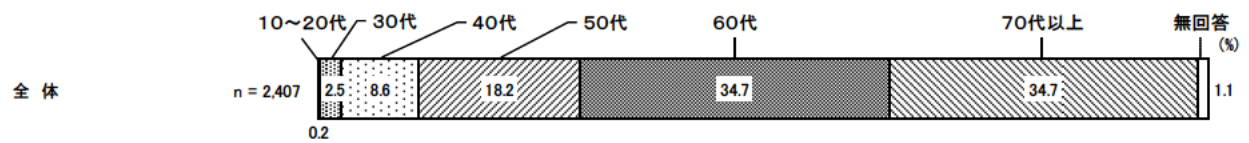


<図表2-1-2 世帯全員の性別>

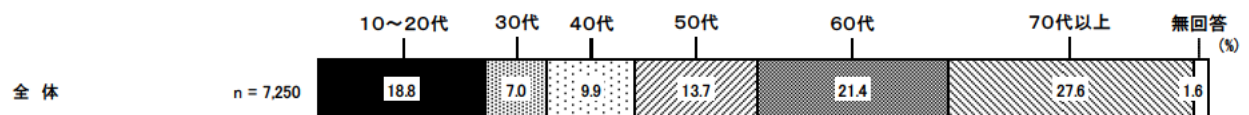


(2) 年齢

<図表2-1-3 年齢>



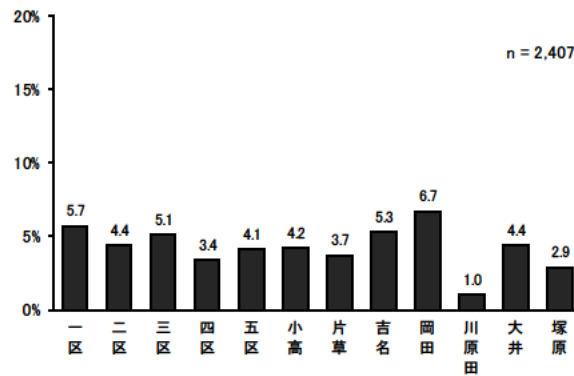
<図表2-1-4 世帯全員の年齢>



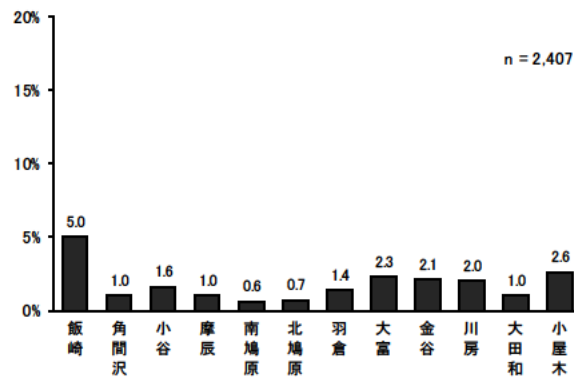
(3) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-5 震災発生当時の住まいの行政区>

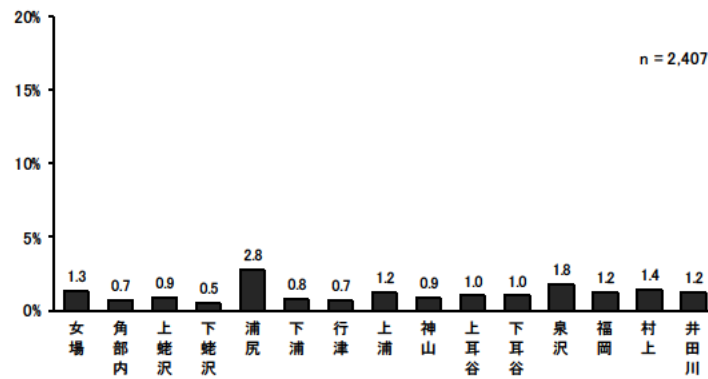
小高区中部



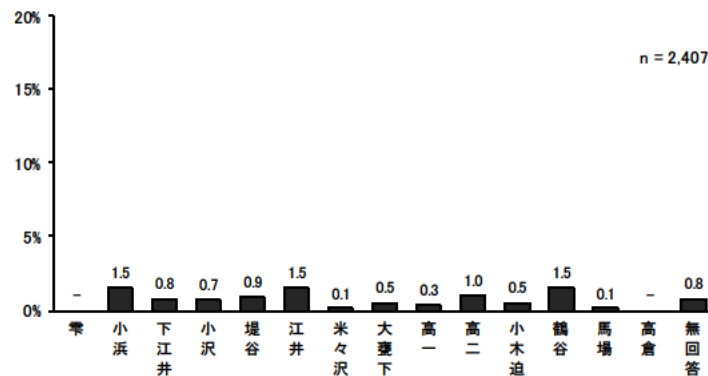
小高区西部



小高区東部



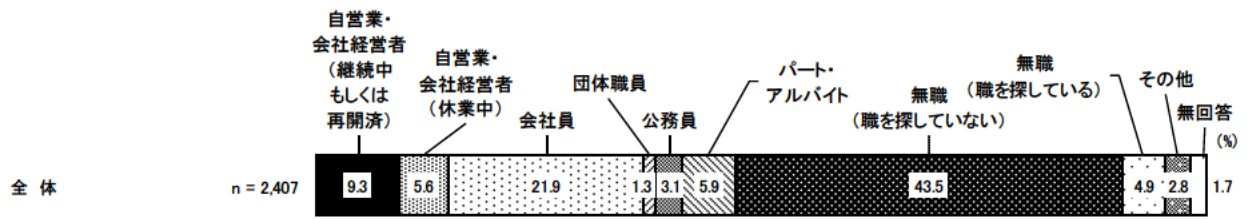
原町区



※調査票上で使用していた行政区名について、「大壺」は「大壺下」に変更、「高」は「高一」及び「高二」に再分類している。また、新たに「馬場」、「高倉」を追加している。

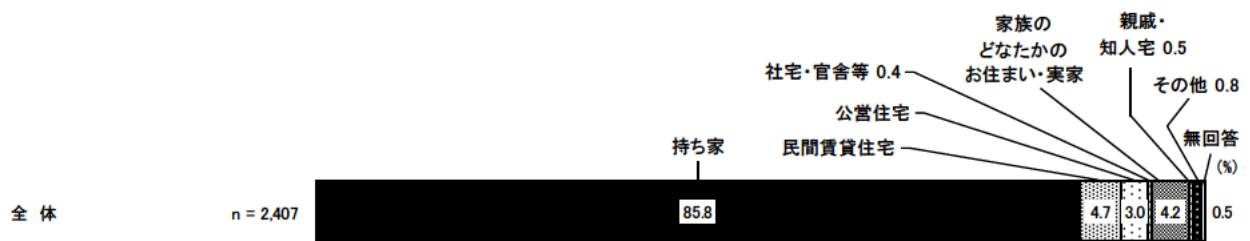
(4) 職業

<図表2-1-6 現在の職業(就業形態)>



(5) 住居形態

<図表2-1-7 震災発生当時の住居形態>



III 調査結果

3-1 現在の状況

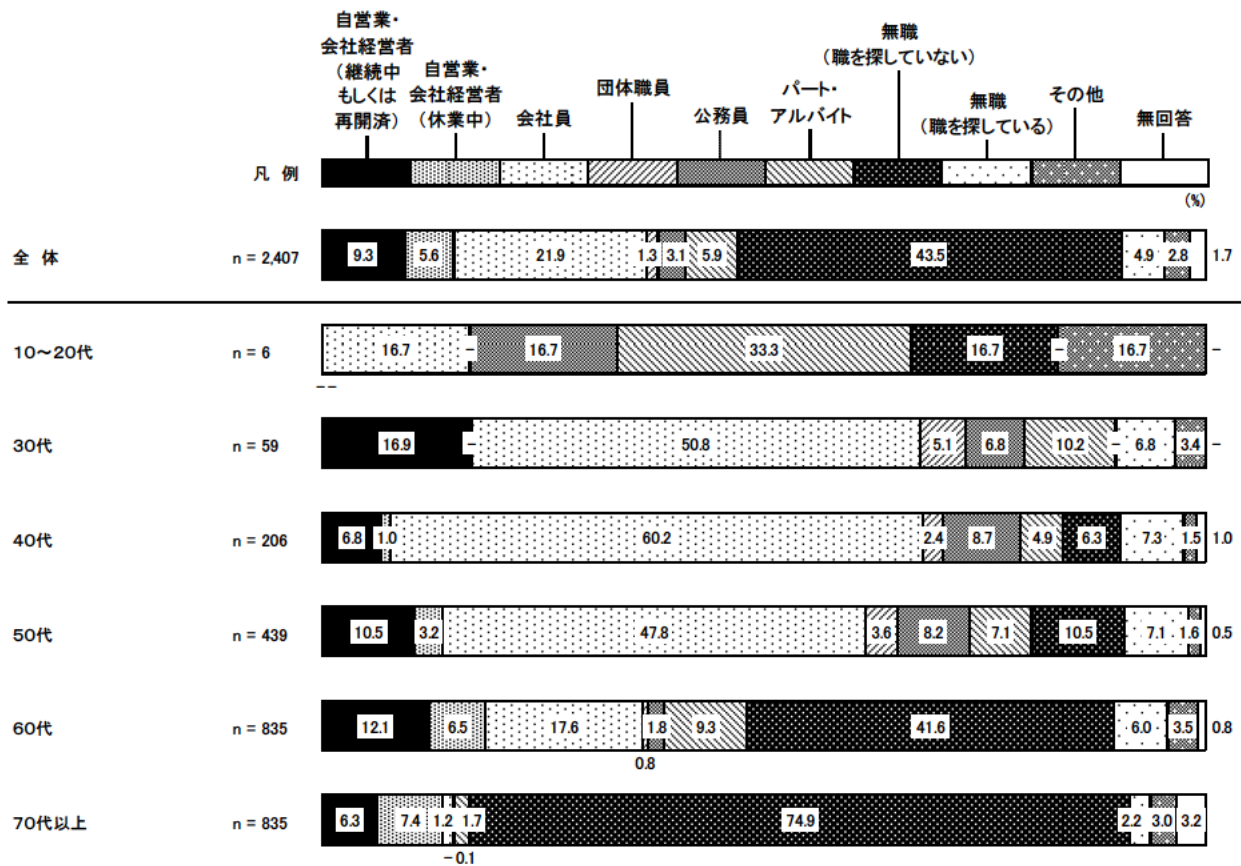
3-1-1 現在の職業

問2 現在のあなたの職業を教えてください。(〇は1つ)

現在の職業（就業形態）については、無職以外では「会社員」が21.9%と最も高く、次いで「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」が9.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、それぞれ最も高い割合を占めている職業は、10～20代は「パート・アルバイト」(33.3%)、30代は「会社員」(50.8%)、40代は「会社員」(60.2%)、50代は「会社員」(47.8%)、60代は「無職（職を探していない）」(41.6%)、70代以上は「無職（職を探していない）」(74.9%)となっている。

<図表3-1-1-1 現在の職業（回答者の年齢別）>



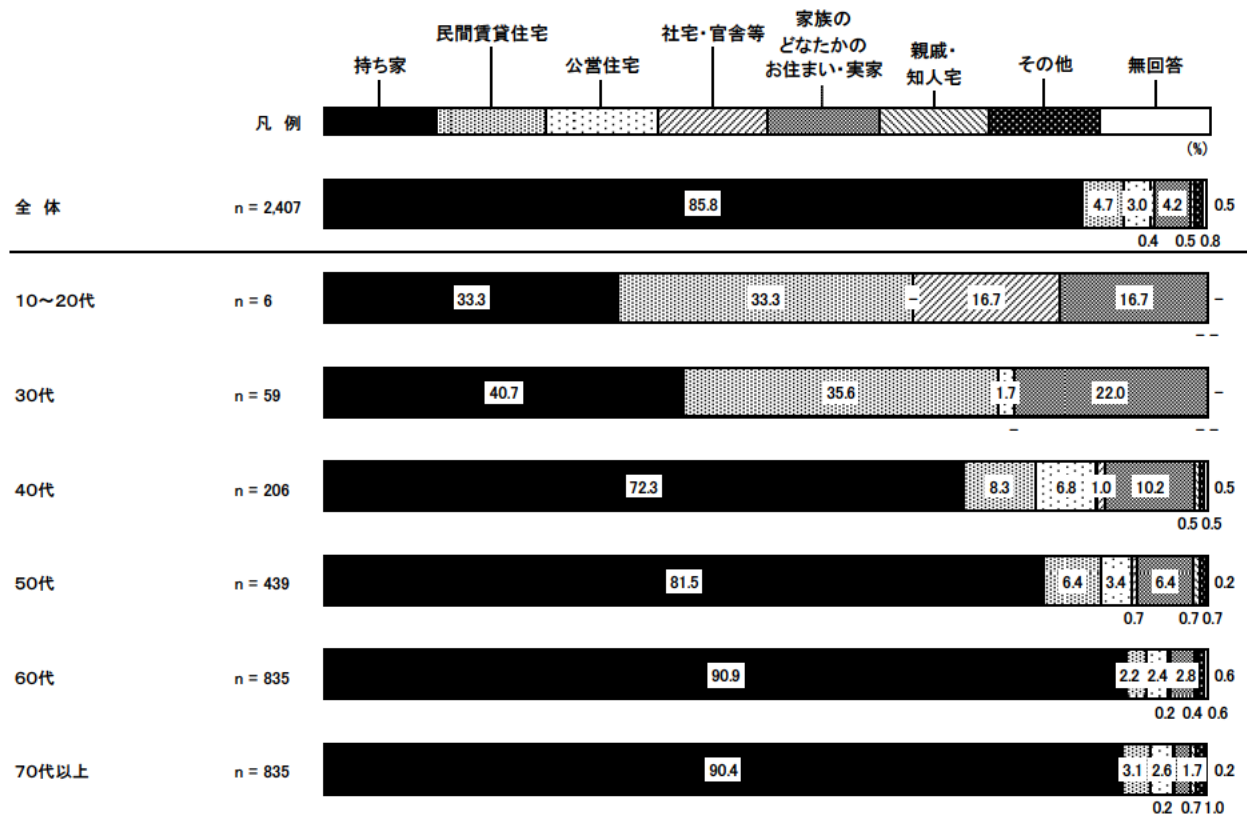
3-1-2 震災発生当時の住居形態

問4 震災当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家」が85.8%と最も高くなっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家」は60代で90.9%、70代以上で90.4%と約9割を占めている。一方、30代以下では「民間賃貸住宅」、「家族のどなたかのお住まい・実家」など、持ち家以外にお住まいであった方が概ね5割以上を占めている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の住居形態（回答者の年齢別）>



3-2 将来の意向

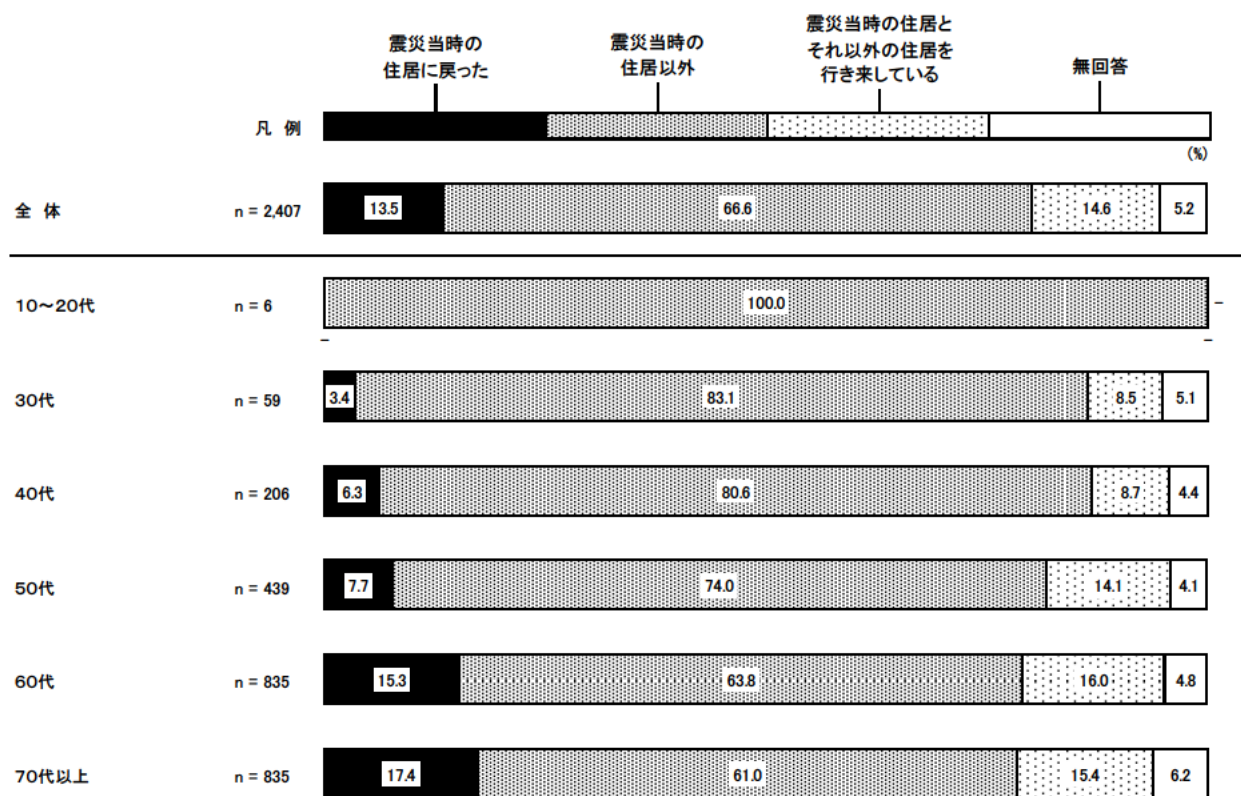
3-2-1 現在の住まい

問5 現在、あなたはどちらにお住まいですか。(〇は1つ)

現在の住まいについては、「震災当時の住居以外」が66.6%と最も高く、次いで「震災当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」が14.6%、「震災当時の住居に戻った」が13.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「震災当時の住居に戻った」、「震災当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」は、概ね年齢が高くなるほど割合が高くなっており、60代以上では合計で3割以上を占めている。

<図表3-2-1-1 現在の住まい（回答者の年齢別）>



3-2-2 今後の定住先

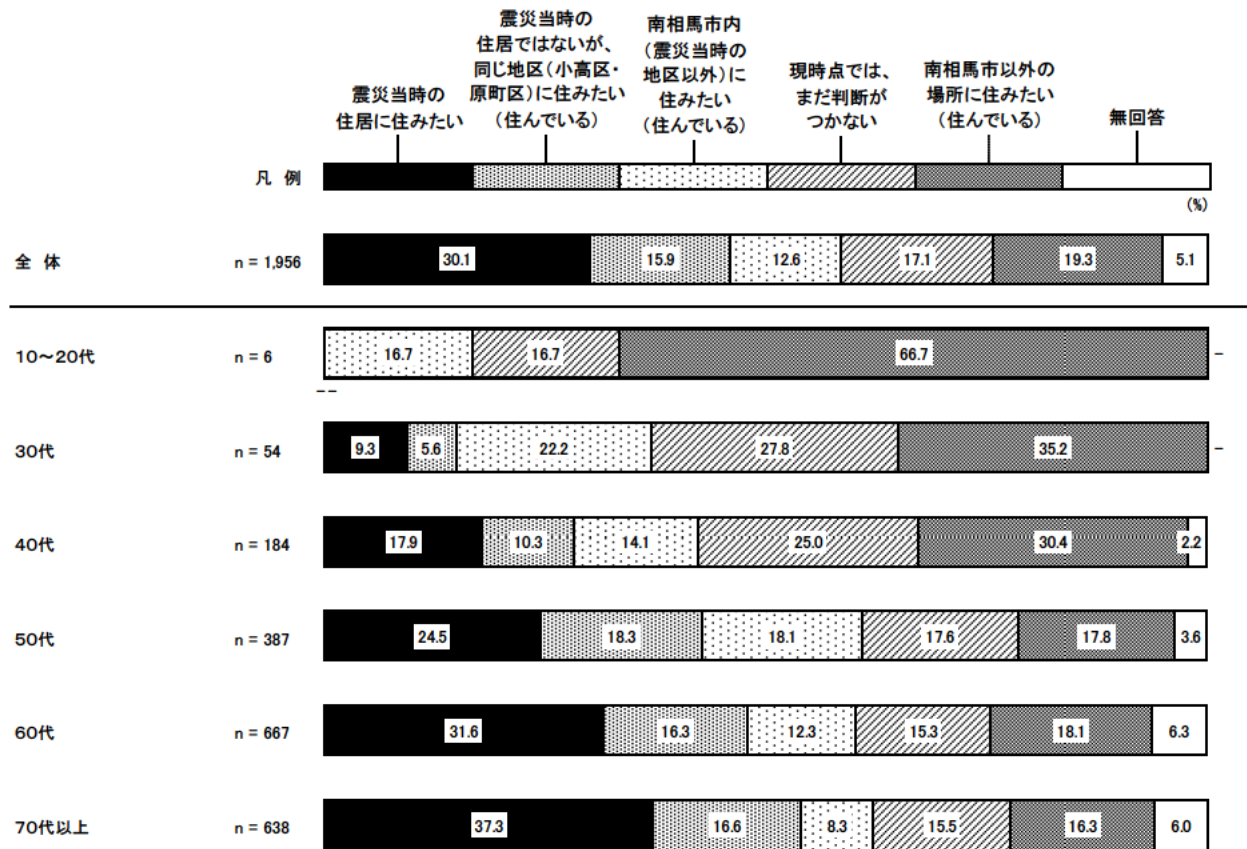
問5で「2.震災当時の住居以外」又は「3.震災当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方に伺います。

問6 今後の定住先について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

今後の定住先については、「震災当時の住居に住みたい」が30.1%と最も高く、次いで「南相馬市以外の場所に住みたい(住んでいる)」が19.3%、「現時点では、まだ判断がつかない」が17.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど震災当時の住居・地区に住みたい世帯が増える一方で、若年層になるほど元の住居・地区を離れて住みたい世帯が増えている。

<図表3-2-2-1 今後の定住先(回答者の年齢別)>

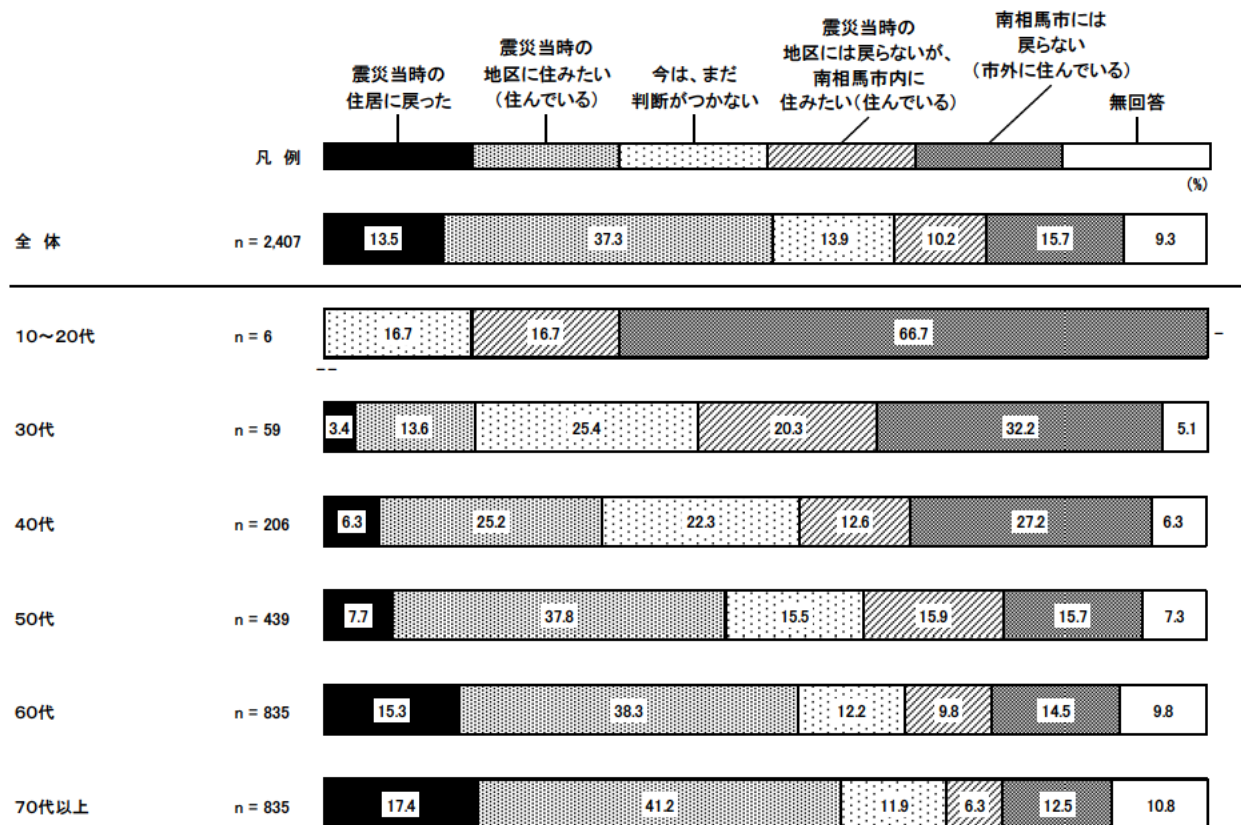


3-2-3 南相馬市への帰還意向

南相馬市への帰還意向については、震災当時の住居・地区に住みたい（住んでいる）世帯が約5割となっている。

回答者の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど震災当時の住居・地区に住みたい世帯が増える一方で、若年層になるほど元の住居・地区を離れて住みたい世帯が増えている。

<図表3-2-3-1 南相馬市への帰還意向（回答者の年齢別）>

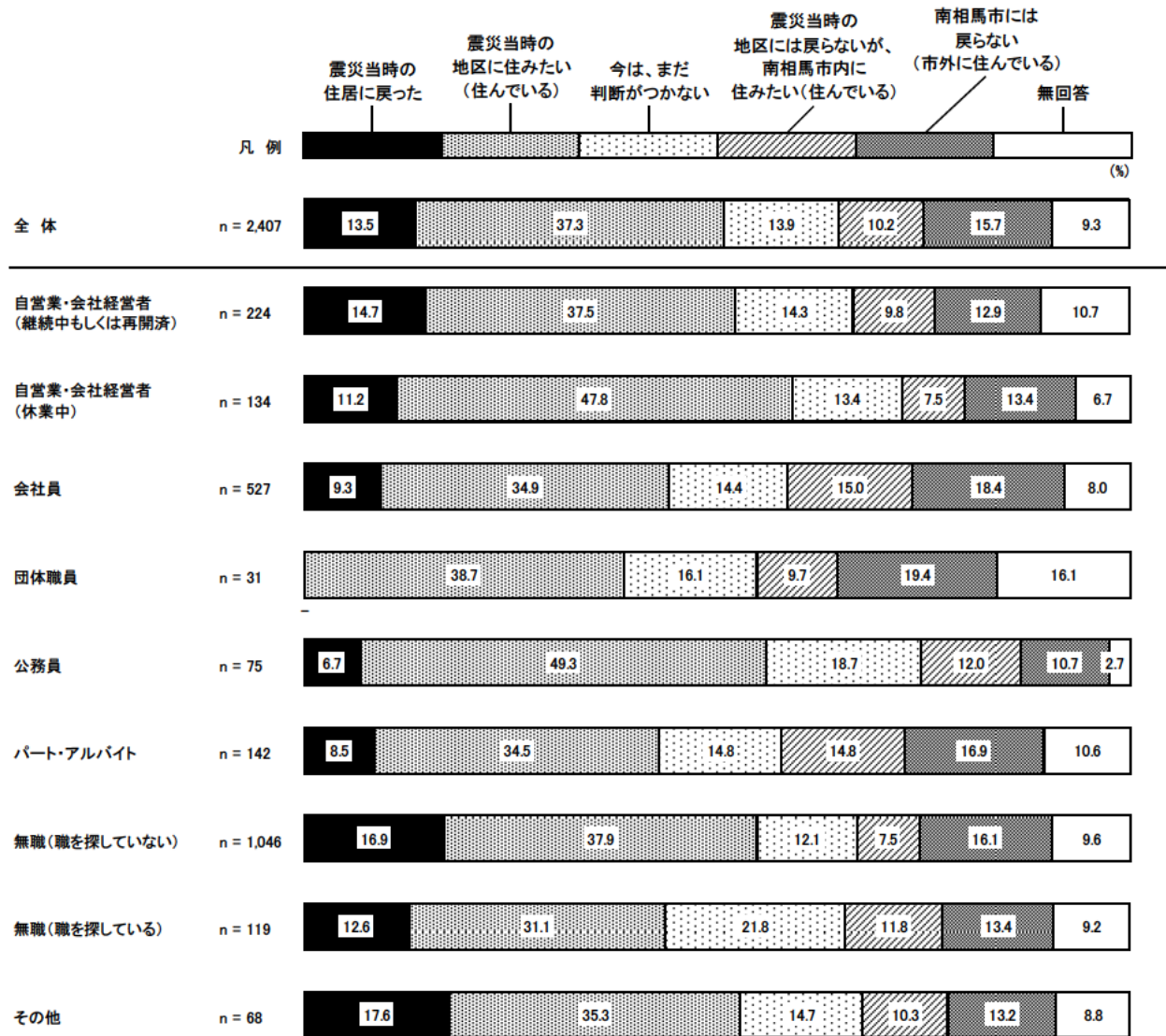


※南相馬市への帰還意向は、問5、問6の回答結果を以下の分類で再集計

- 震災当時の住居に戻った
問5で「震災当時の住居に戻った」と回答した方
- 震災当時の地区に住みたい（住んでいる）
問6で「震災当時の住居に住みたい」「震災当時の住居ではないが、同じ地区（小高区・原町区）に住みたい（住んでいる）」と回答した方
- 今は、まだ判断がつかない
問6で「現時点では、まだ判断がつかない」と回答した方
- 震災当時の地区には戻らないが、南相馬市内に住みたい（住んでいる）
問6で「南相馬市内（震災当時の地区以外）に住みたい（住んでいる）」と回答した方
- 南相馬市には戻らない（市外に住んでいる）
問6で「南相馬市以外の場所に住みたい（住んでいる）」と回答した方
- 無回答
問5、問6で「無回答」の方

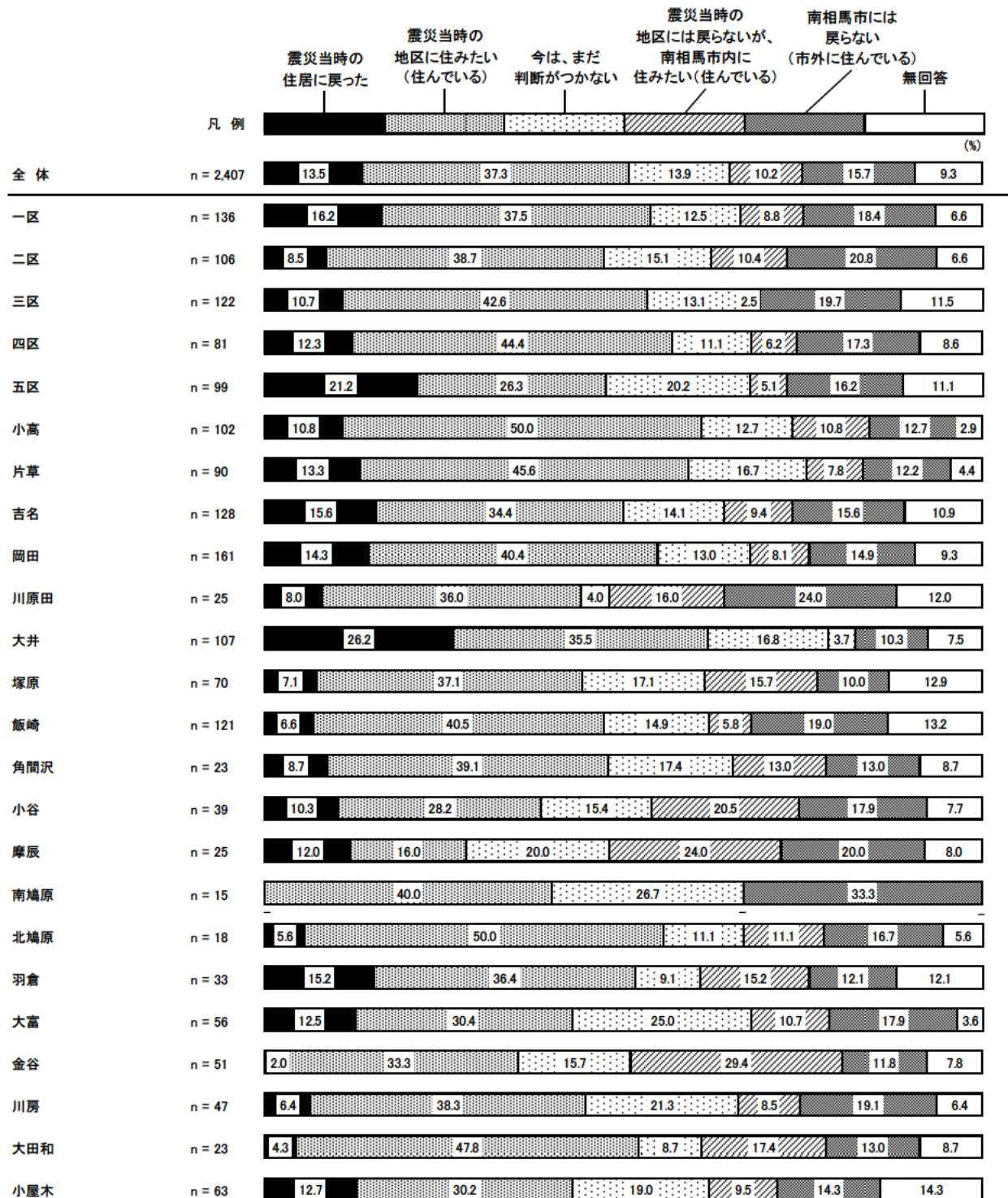
回答者の職業別にみると、「震災当時の地区に住みたい（住んでいる）」は、公務員（49.3%）、自営業・会社経営者（休業中）（47.8%）で高くなっている。一方、「南相馬市には戻らない（市外に住んでいる）」は、団体職員（19.4%）、会社員（18.4%）で高くなっている。

<図表3-2-3-2 南相馬市への帰還意向（回答者の職業別）>

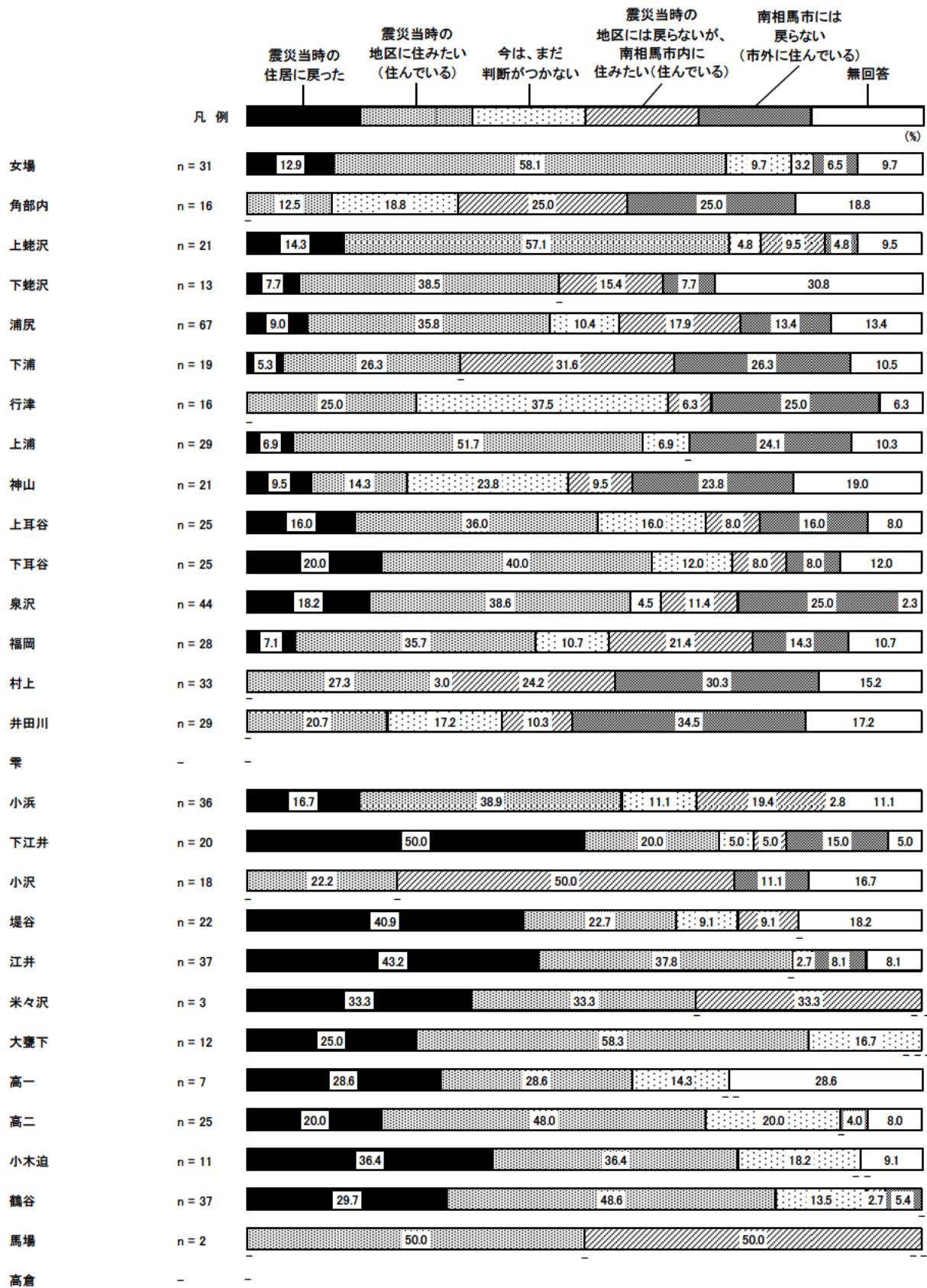


震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「震災当時の住居に戻った」は、下江井（50.0%）、江井（43.2%）、堤谷（40.9%）で4割以上と高くなっている。「震災当時の地区に住みたい（住んでいる）」は、大甕下（58.3%）、女場（58.1%）、上姥沢（57.1%）で6割弱と高くなっている。一方、「南相馬市には戻らない（市外に住んでいる）」は、井田川（34.5%）、南鳩原（33.3%）、村上（30.3%）で3割以上と高くなっている。

＜図表3-2-3-3 南相馬市への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞



<図表3-2-3-3 南相馬市への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）続き>



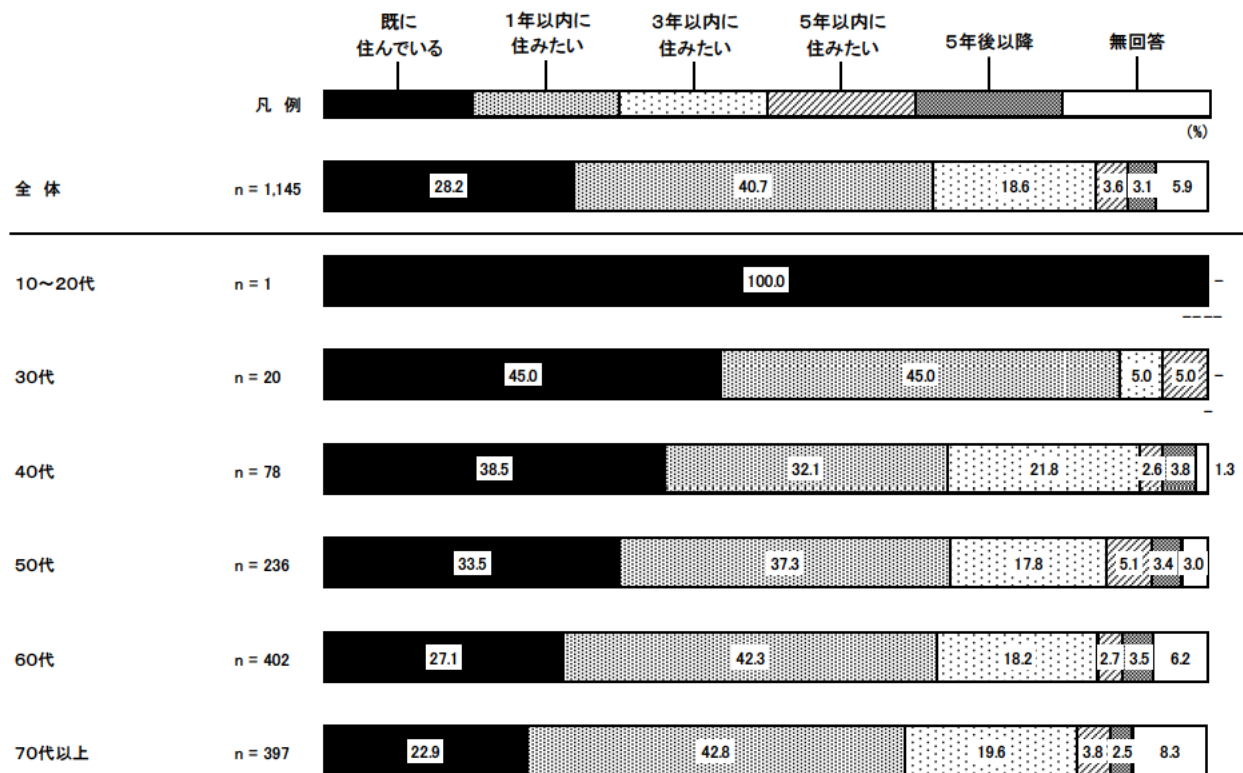
3-2-4 定住先に住みたい（住んでいる）時期

問6で「1.震災当時の住居に住みたい」「2.震災当時の住居ではないが、同じ地区（小高区・原町区）に住みたい（住んでいる）」「3.南相馬市内（震災当時の地区以外）に住みたい（住んでいる）」と回答した方に伺います。
 問7 住みたい（住んでいる）時期についてお聞かせください。（〇は1つ）

定住先に住みたい（住んでいる）時期については、「1年以内に住みたい」が40.7%と最も高く、次いで「既に住んでいる」が28.2%、「3年以内に住みたい」が18.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、若年層になるほど早い時期に戻る意向（既に戻っている世帯も含む）を持っている割合が高い。

<図表3-2-4-1 定住先に住みたい（住んでいる）時期（回答者の年齢別）>



3-2-5 定住先に住みたい時期の理由

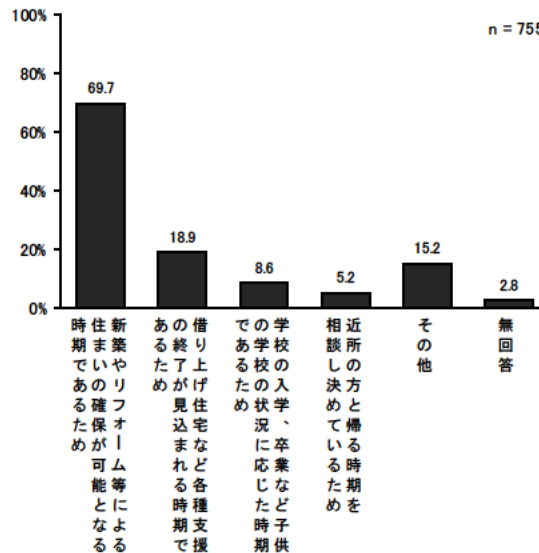
問7で「2. 1年以内に住みたい」「3. 3年以内に住みたい」「4. 5年以内に住みたい」「5. 5年後以降」と回答した方に伺います。

問7-1 問7で選択された「住みたい時期」の理由についてお聞かせください。(〇はいくつでも)

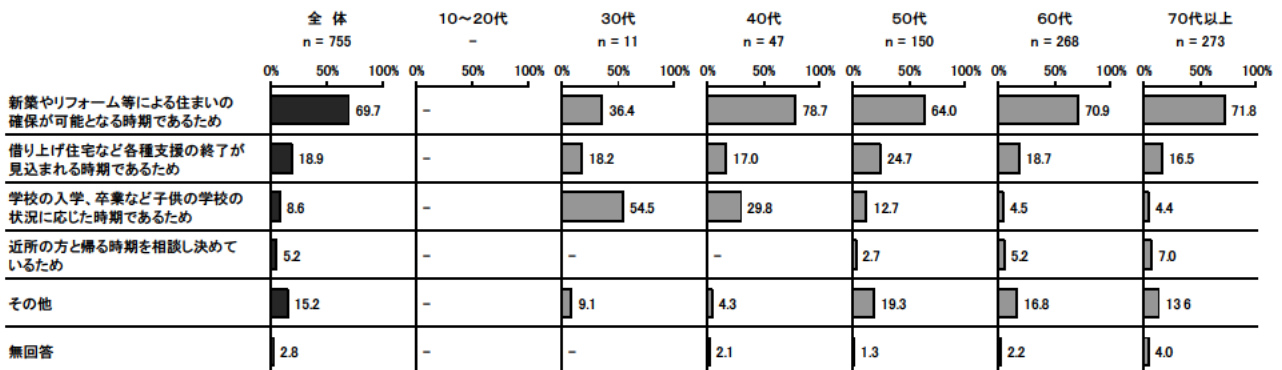
定住先に住みたい時期の理由については、「新築やリフォーム等による住まいの確保が可能となる時期であるため」が69.7%と最も高く、次いで「借り上げ住宅など各種支援の終了が見込まれる時期であるため」が18.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「学校の入学、卒業など子供の学校の状況に応じた時期であるため」は30代(54.5%)、40代(29.8%)が、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-5-1 定住先に住みたい時期の理由>



<図表3-2-5-2 定住先に住みたい時期の理由(回答者の年齢別)>



3-2-6 現時点で今後の定住先について判断できない理由

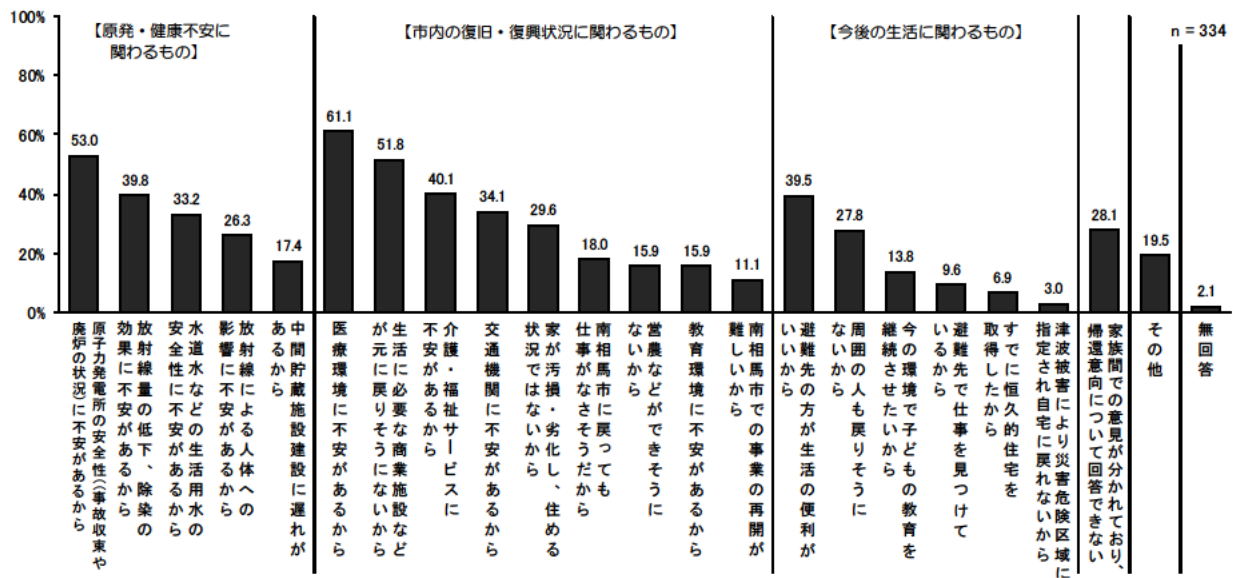
問6で「4.現時点では、まだ判断がつかない」「5.南相馬市以外の場所に住みたい（住んでいる）」と回答した方に伺います。
 問8 現時点では、まだ判断がつかない理由や、南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

現時点で今後の定住先について判断できない理由について、【原発・健康不安に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）に不安があるから」が53.0%と最も高く、次いで「放射線量の低下、除染の効果に不安があるから」が39.8%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が33.2%となっている。

【市内の復旧・復興状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が61.1%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が51.8%、「介護・福祉サービスに不安があるから」が40.1%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活の便利がいいから」が39.5%と最も高く、次いで「周囲の人も戻りそうにないから」が27.8%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が13.8%となっている。

<図表3-2-6-1 現時点で今後の定住先について判断できない理由>



※問6で「現時点では、まだ判断がつかない」を選んだ方の回答のみを集計

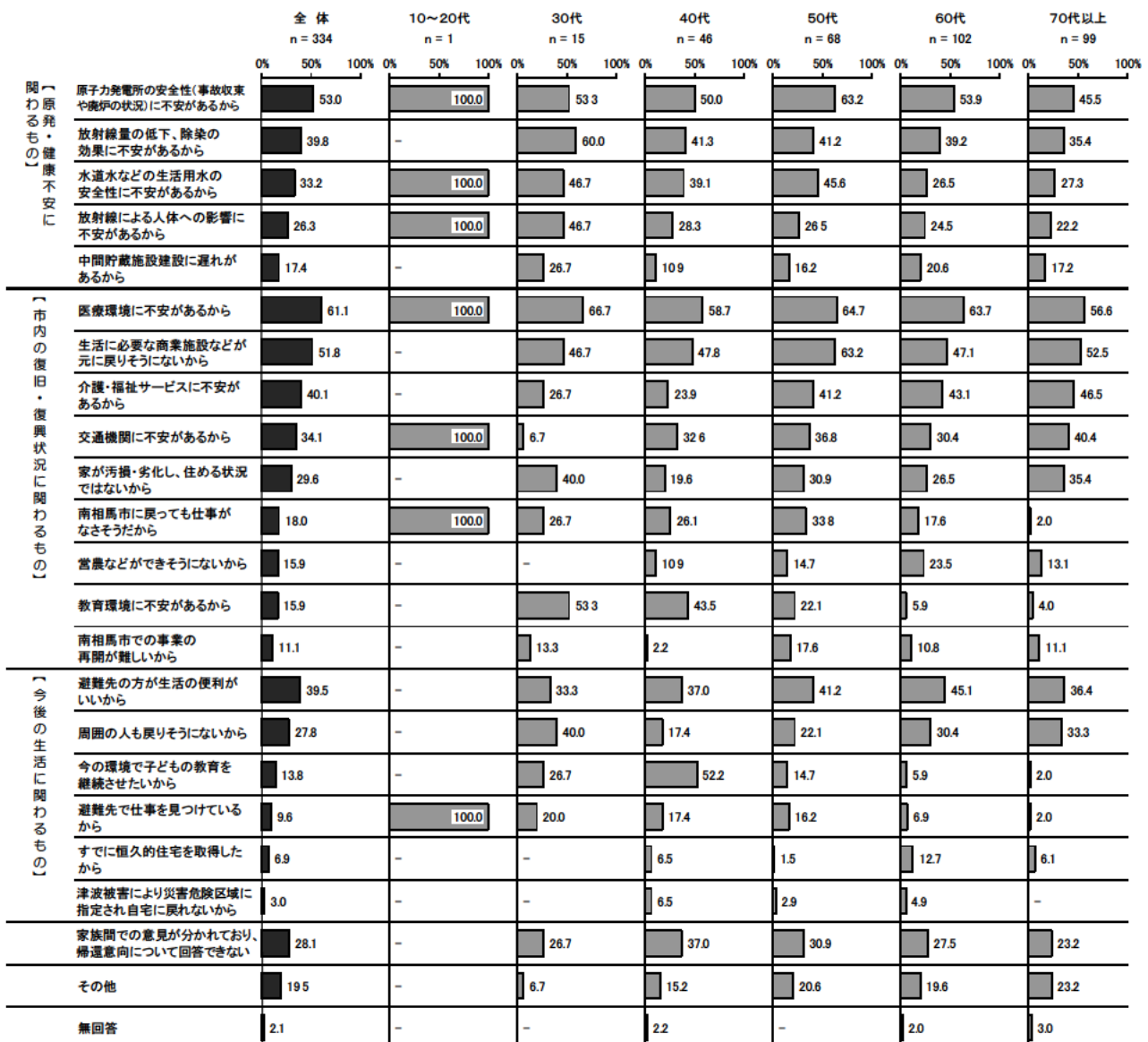
III 調査結果

回答者の年齢別にみると、【原発・健康不安に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）に不安があるから」は50代（63.2%）、「放射線量の低下、除染の効果に不安があるから」は30代（60.0%）、「放射線による人体への影響に不安があるから」は30代（46.7%）で他の年齢に比べ高くなっている。

【市内の復旧・復興状況に関わるもの】では、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は50代（63.2%）、「教育環境に不安があるから」は30代（53.3%）、40代（43.5%）で他の年齢に比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「周囲の人も戻りそうにないから」は30代（40.0%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は40代（52.2%）で他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-2-6-2 現時点で今後の定住先について判断できない理由（回答者の年齢別）＞



3-2-7 南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由

問6で「4 現時点では、まだ判断がつかない」「5.南相馬市以外の場所に住みたい（住んでいる）」と回答した方に伺います。

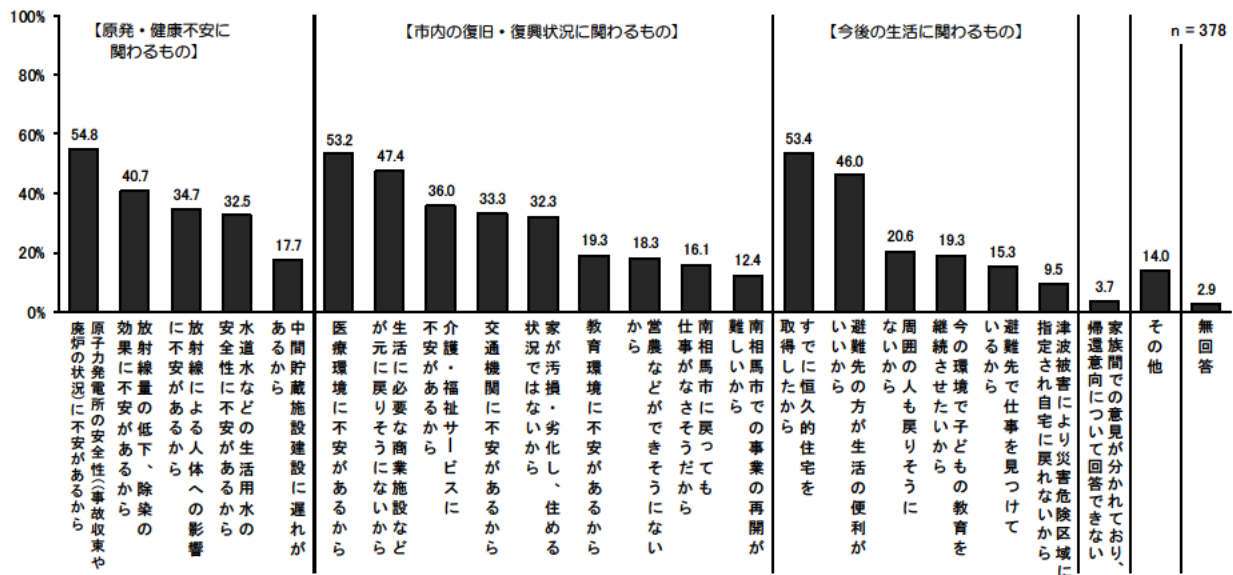
問8 現時点では、まだ判断がつかない理由や、南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由について、【原発・健康不安に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）に不安があるから」が54.8%と最も高く、次いで「放射線量の低下、除染の効果に不安があるから」が40.7%、「放射線による人体への影響に不安があるから」が34.7%となっている。

【市内の復旧・復興状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が53.2%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が47.4%、「介護・福祉サービスに不安があるから」が36.0%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「すでに恒久的住宅を取得したから」が53.4%と最も高く、次いで「避難先の方が生活の便利がいいから」が46.0%、「周囲の人も戻りそうにないから」が20.6%となっている。

<図表3-2-7-1 南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由>



※問6で「南相馬市以外の場所に住みたい（住んでいる）」を選んだ方の回答のみを集計

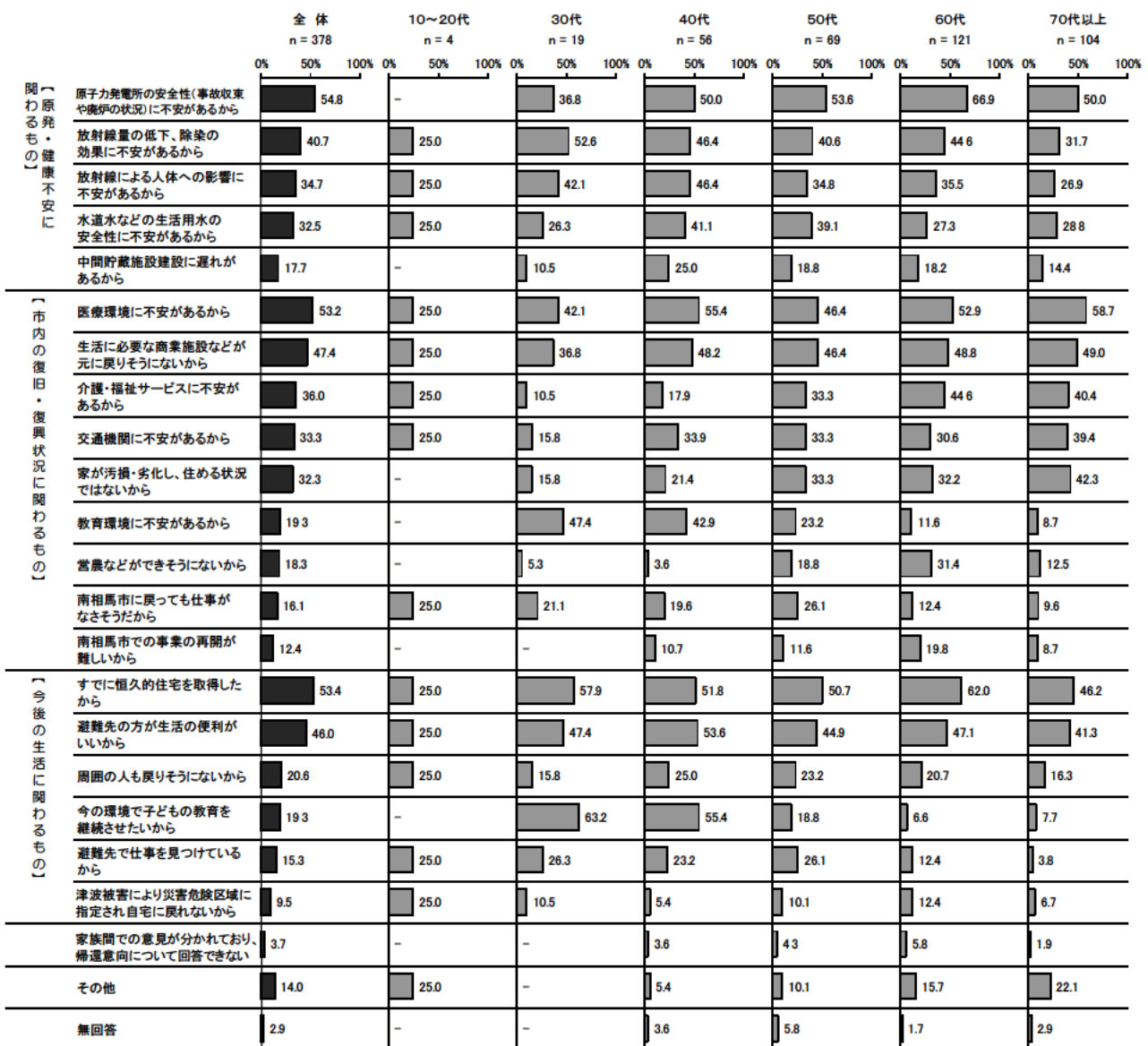
III 調査結果

回答者の年齢別にみると、【原発・健康不安に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）に不安があるから」は60代（66.9%）、「放射線量の低下、除染の効果に不安があるから」は30代（52.6%）、「放射線による人体への影響に不安があるから」は30代（42.1%）、40代（46.4%）、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は40代（41.1%）、50代（39.1%）で他の年齢に比べ高くなっている。

【市内の復旧・復興状況に関わるもの】では、「介護・福祉サービスに不安があるから」は60代（44.6%）、70代以上（40.4%）、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」は70代以上（42.3%）、「教育環境に不安があるから」は30代（47.4%）、40代（42.9%）、「営農などができそうにないから」は60代（31.4%）で他の年齢に比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代（63.2%）、40代（55.4%）で他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-2-7-2 南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由（回答者の年齢別）＞



3-3 全世帯員の意向

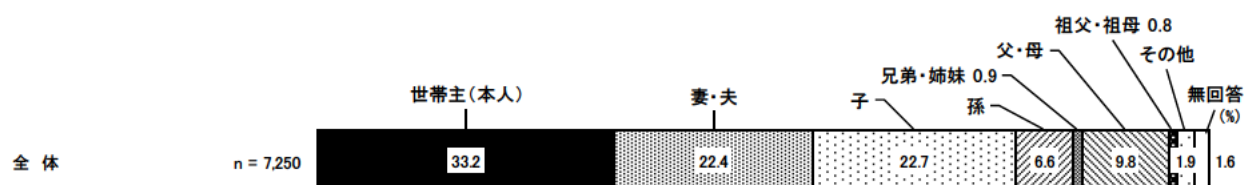
3-3-1 続柄

ご家族の現在の状況について、表1～表3よりご回答ください。回答は、個人ごとにご記入ください。
(続柄)

今後の意向について、世帯の全員を対象に調査を行った。

続柄(世帯構成)については、「世帯主」が33.2%と最も高く、次いで「子」(22.7%)、「妻・夫」(22.4%)となっている。

<図表3-3-1-1 続柄(世帯構成)>

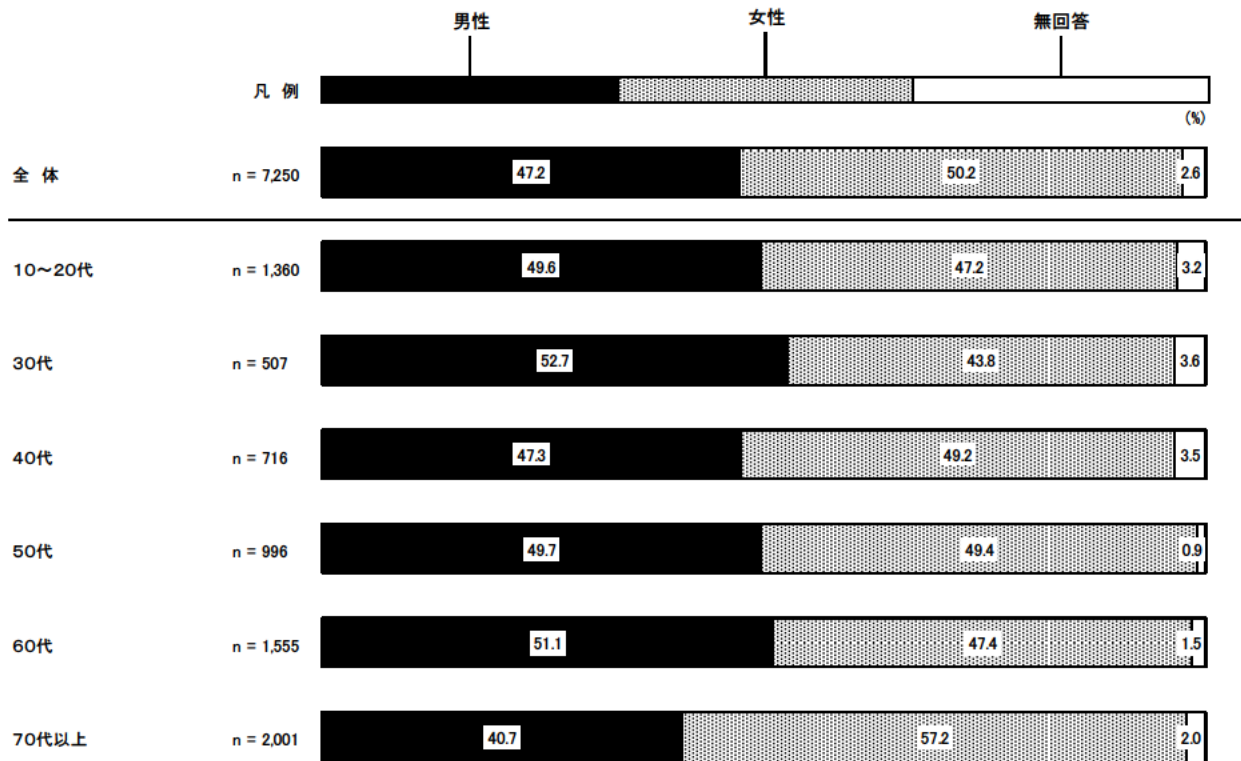


3-3-2 性別

ご家族の現在の状況について、表1～表3よりご回答ください。回答は、個人ごとにご記入ください。
(性別)

世帯全員の性別については、「男性」が47.2%、「女性」が50.2%となっている。

<図表3-3-2-1 世帯全員の性別（世帯全員の年齢別）>

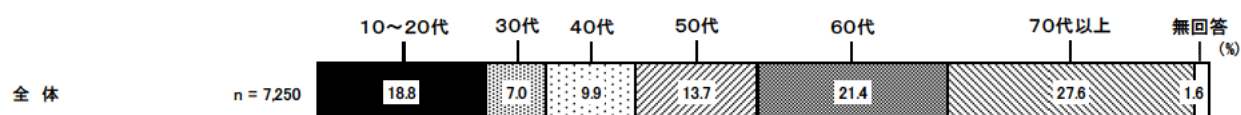


3-3-3 年齢

ご家族の現在の状況について、表1～表3よりご回答ください。回答は、個人ごとにご記入ください。
(年齢)

世帯全員の年齢については、「70代以上」が27.6%と最も高く、60代以上の高齢者が全体の約5割を占める。

<図表3-3-3-1 世帯全員の年齢>



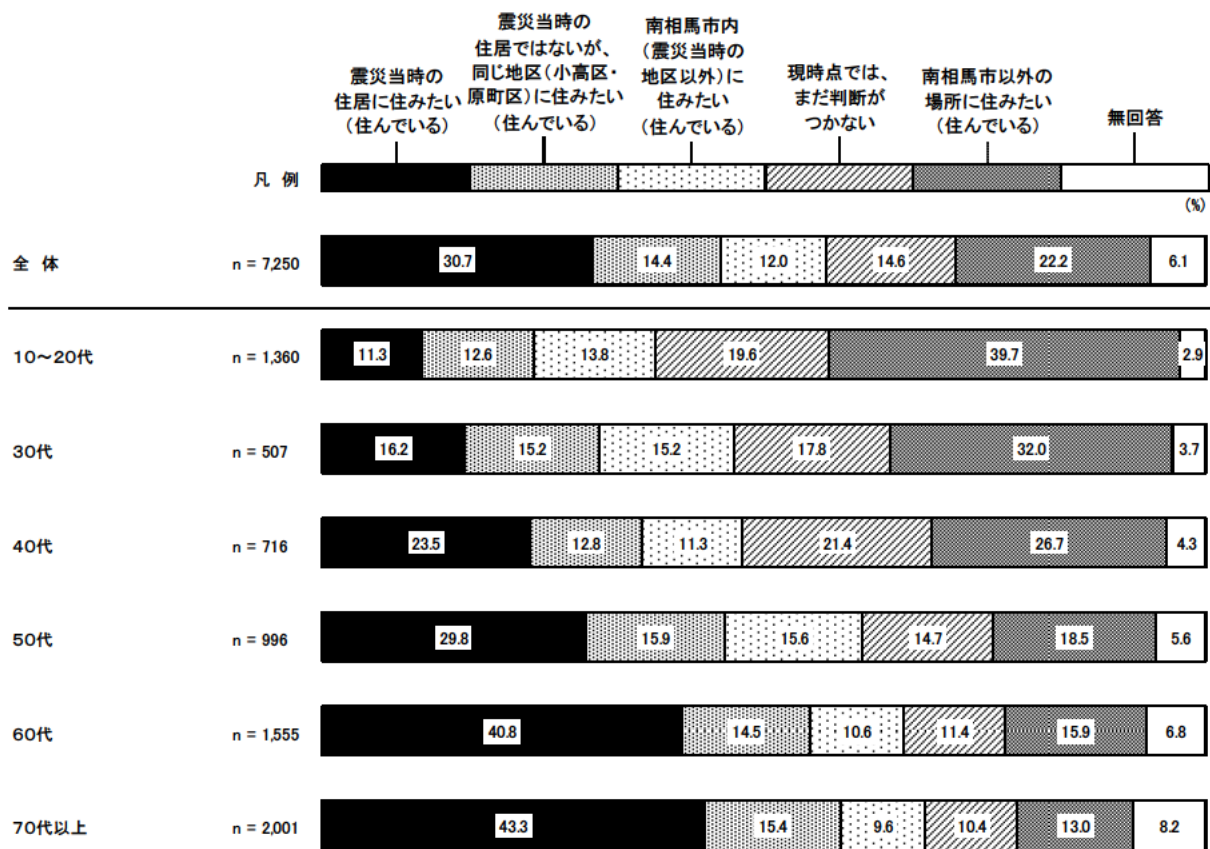
3-3-4 今後の住まいの意向

ご家族の現在の状況について、表1～表3よりご回答ください。回答は、個人ごとにご記入ください。
 (表2 今後の住まいの意向)

世帯全員の今後の住まいの意向については、「震災当時の住居に住みたい(住んでいる)」が30.7%と最も高く、次いで「南相馬市以外の場所に住みたい(住んでいる)」(22.2%)、「現時点では、まだ判断がつかない」(14.6%)となっている。

世帯全員の年齢別にみると、「震災当時の住居に住みたい(住んでいる)」は、概ね年齢が高くなるほど割合が高くなっており、60代では40.8%、70代以上では43.3%となっている。一方、「南相馬市以外の場所に住みたい(住んでいる)」は若年層で高く、10～20代で39.7%、30代で32.0%となっている。

<図表3-3-4-1 今後の住まいの意向(世帯全員の年齢別)>



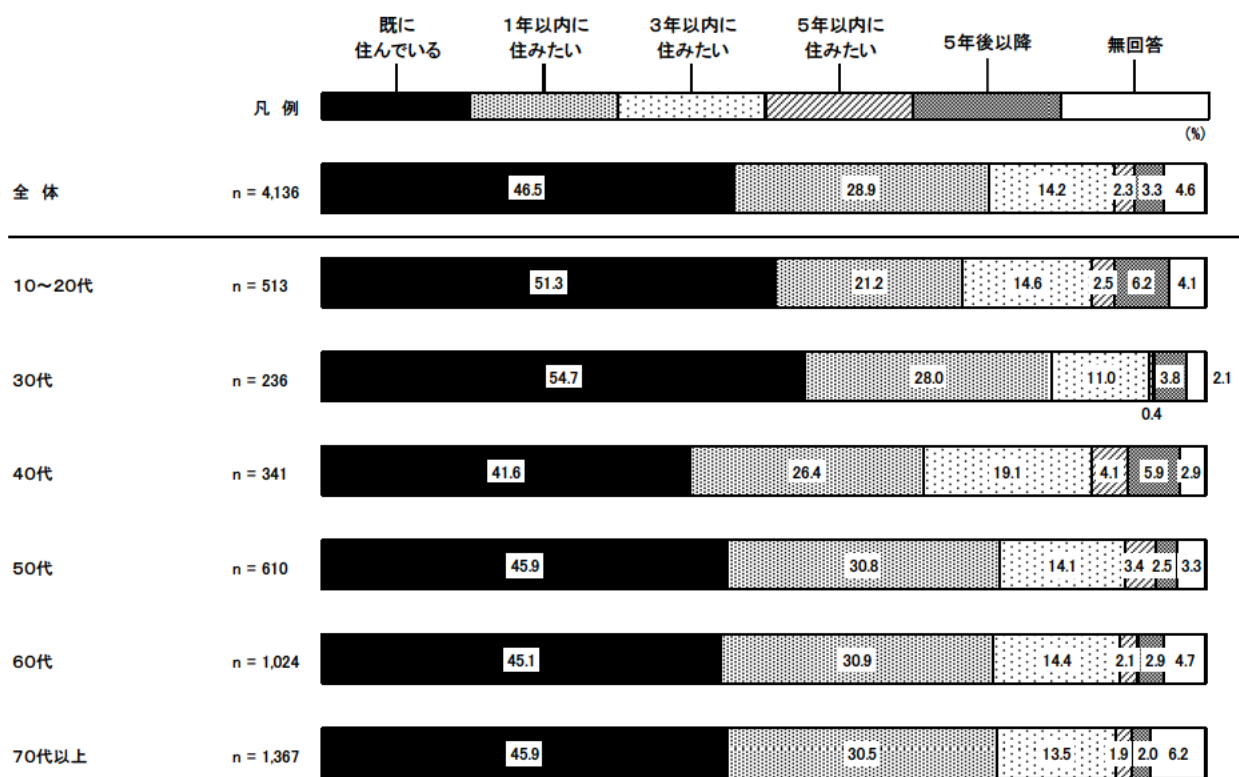
3-3-5 住みたい時期

ご家族の現在の状況について、表1～表3よりご回答ください。回答は、個人ごとにご記入ください。
 (表3 住みたい時期 表2で1～3を選んだ方のみ回答)

世帯全員の住みたい時期については、「既に住んでいる」が46.5%と最も高く、次いで「1年以内に住みたい」(28.9%)、「3年以内に住みたい」(14.2%)となっている。

世帯全員の年齢別にみると、「既に住んでいる」は若年層で高く、10～20代で51.3%、30代で54.7%となっている。

<図表3-3-5-1 住みたい時期(世帯全員の年齢別)>



3-4 意見・要望

問9 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、1,063世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> 元の生活が取り戻せるかどうかの不安 元の生活、安定した生活の回復 元の生活に戻ることについてのあきらめ 現在の生活について 現在の生活の人間関係・コミュニティについて 現在の生活の経済的な不安について 現在の生活の健康に関する不安について 現在の生活の仕事・学業に関する不安について 現在の生活全般の不安について 将来の生活に関する考えについて 将来の生活の経済的な不安について 将来の生活の健康に関する不安について 将来の生活の仕事・学業に関する不安について 将来の生活全般の不安について 生活（再建）支援について その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> 除染作業の意義について 除染作業の効果などについて 除染作業の実施箇所などについて 除染作業の早期・迅速・的確な実施について 除染作業スケジュールの明確化について 除染廃棄物の処理について その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰還困難区域への立入りについて 帰還困難区域等の設定について 所有する住まい・土地の買取りについて 自宅の現状（被害状況）について 自宅の再建・改築・解体について 元の住居や土地などの管理・処分について 元の住居や土地に対する税について 所有する墓地の維持・管理・移転について 野生動物の駆除について その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> 復旧・復興の遅れ、長期化について 復旧・復興のスケジュールについて 復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ライフライン・インフラの整備について 社会福祉施設の整備について 医療施設の復興・充実について 学校の復興・充実について 商業の復興・充実について 住民の参加・自助努力について 早期の原状回復・復興実現について その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> 賠償内容・方法について 賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について 所有する住まい・土地に対する賠償全般について その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃炉作業の迅速な実施について 廃炉作業全般について その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰還への不安 帰還可能時期の明確化について 帰還したい 帰還しない 現時点では帰還の判断ができない 帰還に関する施策について 帰還を望まない人への対応について その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政や東電の対応について 対応の長期化、遅れについて 情報の開示・発信について その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> 復興公営住宅の建設地・形態等について 復興公営住宅への入居について 居住場所の確保について 借上げ住宅について 住宅の購入について 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後のエネルギー政策について 行政に対する謝意、励まし その他

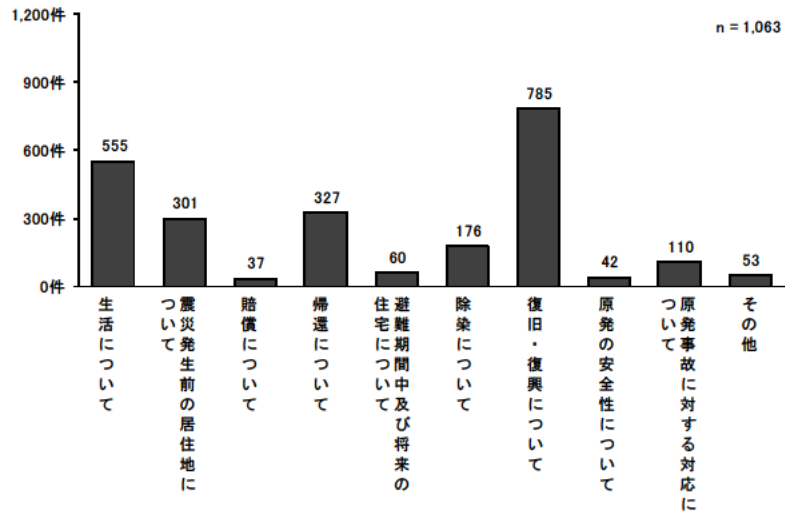
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「復旧・復興について」が785件と最も多く、次いで「生活について」が555件などとなっている。

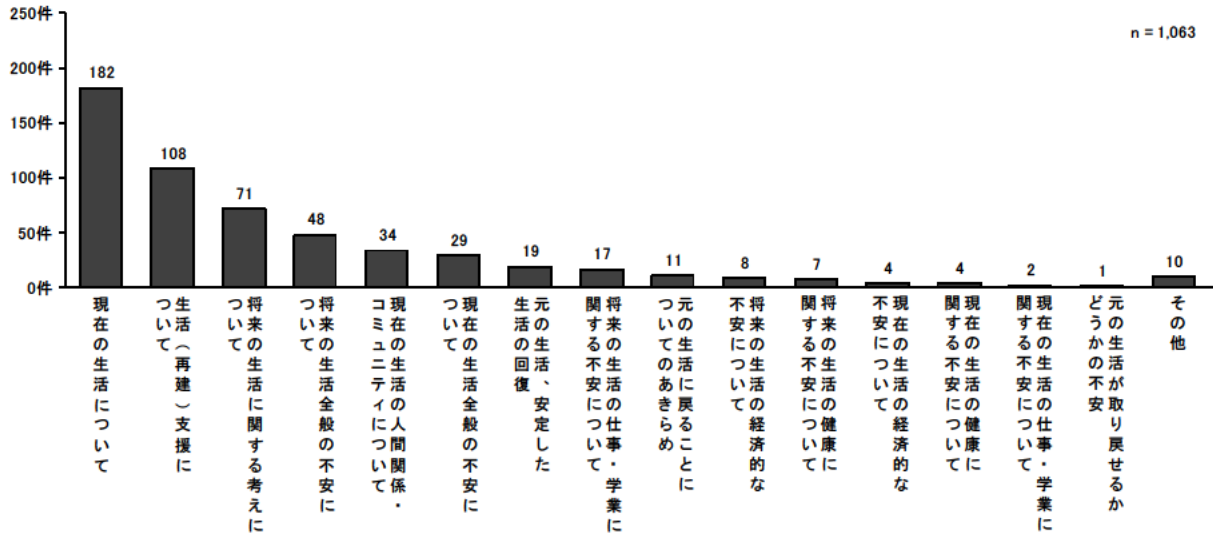
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「現在の生活について」が 182 件と最も多く、次いで「生活（再建）支援について」が 108 件、「将来の生活に関する考えについて」が 71 件などとなっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【現在の生活について】

- 今のところ自力で生活していますが、これから先、1人になった時どうしたら良いのか考えながら月日を送っています。周りが次々と解体されるのは良いがさびしいです。(50代)
- 高齢になり夫婦とも複数の医療機関に通っています。娘家族、息子も近くにいるので精神的には安心感があります。ただ友人関係や小高の自宅への愛着心も大きく、すんなりと住民票を移動できない心理状態です。(60代)
- 現在はスクエアステップ指導員、シルバーリハビリ体操指導士の資格を取り、地域に出て活動している（戻った時に活かそうだと考えて始めた）。(70代以上)

【生活（再建）支援について】

- 自宅や周辺の管理（草刈り、除草剤散布等）のために相当回数避難先と自宅を往復するし、これからも荒廃した自宅の片づけ等で往復する人も多いと思うので高速道無料化の延期を望む。(50代)
- り災家庭に対する行政の経済的援助がほとんど無いと思われます。(60代)
- 医療費の無料を平成30年までお願いします。(70代以上)

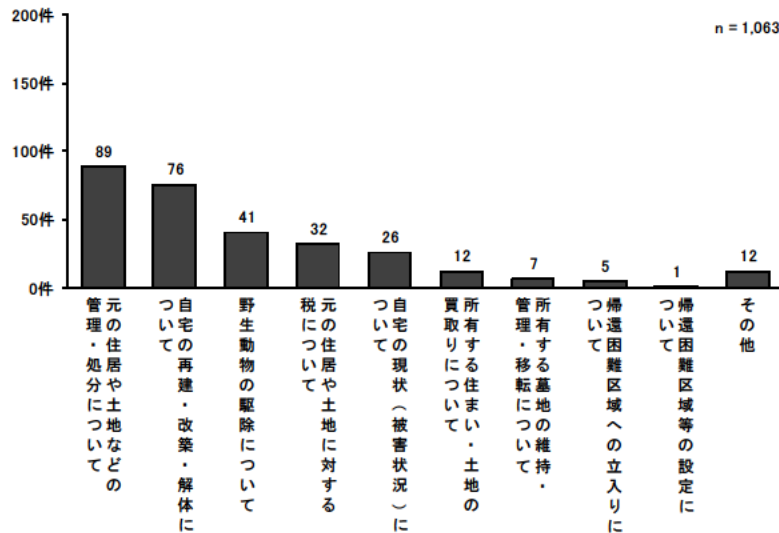
【将来の生活に関する考えについて】

- 子供達は離れてしまったので子供を頼りにしない生活をする事に決めました。一度離れてしまったものは元には戻らない。時間が進むのを待つしかない。(60代)
- 定年後とは言え身体が動く限り働きたいです。ただ力仕事などは無理と感じています。(60代)
- 震災当時の住居をリフォームして前向きに考え生活をしていきたい。(70代以上)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が 89 件と最も多く、次いで「自宅の再建・改築・解体について」が 76 件、「野生動物の駆除について」が 41 件などとなっている。

＜図表 3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[元の住居や土地などの管理・処分について]

- 20km圏内でもあるが津波で土地を離れたため、離農せざるを得ない。今後田畑をどうしたら良いものか困っている。(40代)
- 津波で土地の境が不明となっている。土地の整備や土地の境等は、個人で実施する必要があるのか。(50代)
- 農地等の耕作放棄地の管理（現状体制）について数年続けてほしい。(70代以上)

[自宅の再建・改築・解体について]

- まだ住める状況にあり、解体するには費用が掛かります。そういう状況でも新天地に移住した場合において解体費用を負担して欲しいです。(50代)
- 自宅の解体等が進まず、小高に帰る希望が薄れてくる。(50代)
- 修復工事の順番待ちが結構長くなっています。忘れられているのかなと心配になるものの、業者も忙しいと聞いているので追いこんで荒い仕事をされたくないと思っています。(70代以上)

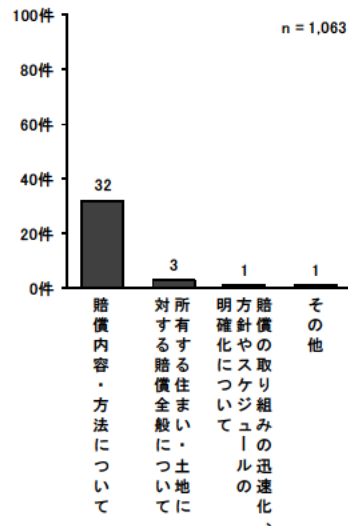
[野生動物の駆除について]

- 畑で野菜などを作付しているが、イノシシとサルに荒らされてしまうので駆除してほしい。サルはゴミ、スモモ、イチジク、柿などの果樹類や畑の野菜類を食い散らし、イノシシは畑作物を食い散らすほか、家の庭や法面などを掘り起こし、あちこちに穴をあけられてしまいます。(10～20代)
- イノシシ（8頭連れてきた）、サル、たぬき、何とかありませんか。飛び出してきて、いつか車とぶつかる危険があります。(50代)
- イノシシやサルの群に出会い、少し恐怖を感じる。対策をお願いしたい。(60代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が32件と最も多く、次いで「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が3件、「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が1件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 住宅確保にかかる費用を、完全に賠償するように東電に働きかけて欲しい。(40代)
- 避難解除後に元の住所に住んだとしても生活する環境（医者、商店、交通、村部の住居周りの荒廃）等、精神的損害は続くので今後も賠償をして貰いたい。(50代)
- 私は農家なので元の生活が出来るまでは国の賠償が必要です。農作物が作付しても販売出来なくては生活していかないので生産された作物はすべて買上げて頂きたいです。(70代以上)

[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]

- 大熊町にて飲食店を営んでおりましたが、店舗の再開は無理でしょう。今後移住先にて飲食店の再開をする予定ですが、大熊町の店舗、損害賠償はどこまで続くのか不安です。(60代)

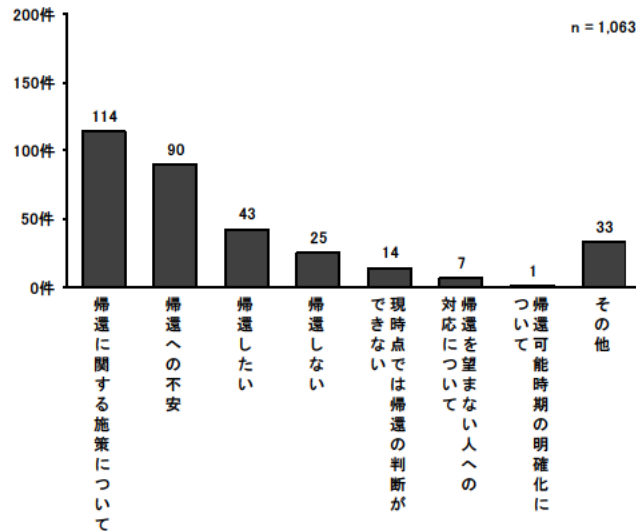
[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

- 原発、県、市の補償について（墓、家、家財等）解除までの諸補償項目をチェックシートにして作成して戴けないでしょうか？家の解体後も手続きを含めまだ山積みです。(70代以上)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が114件と最も多く、次いで「帰還への不安」が90件、「帰還したい」が43件などとなっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- 戻る若者が少なく、戻る者は老人のみとなり今後の事が大変心配であります。若者が希望を持って戻れるような施策を希望します。(50代)
- 若い人たちが戻って来ていないのは、働ける職場がないから。将来に向けて若い人が戻って来てないのは心配である。まちが過疎化になるのではという心配と不安があります。若い人たちが戻って働けるよう企業誘致に力を入れていただきたい。(60代)
- 元の住民が帰ってきて生活を始めたのなら優遇処置をしばらく継続してあげるべきと思う。新たに移住しようと思う人にはもっと大胆な優遇制度を設けてあげるべき。(60代)

【帰還への不安】

- 自宅へ戻る人が少ない、交通の便が悪い、商店がない(スーパー等)、しかし戻る予定。息子、孫も戻らず今後とても不安である。(50代)
- 小高に戻る場合、医療や、スーパー等安定した生活が出来れば良いのですが、現況ではまだ不安です。やがて年取った時の事を思うと迷いがでます。(60代)
- 今後帰っても若者や子供が安全に生活できるのか私は心配であります。特に放射能は3年前と今と変わりないようです。(70代以上)

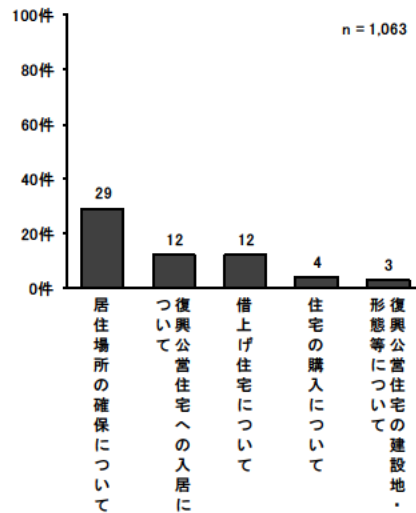
【帰還したい】

- 子供の学校を考えて、現在は違う地区を選ばざるを得ない状況です。今よりも戻る人が増え、部活動も増えれば、出来ることなら戻りたいです。(40代)
- 住みなれたふるさとを離れて何箇所も避難してきましたが、復興も進み来年3月には帰れるようになり嬉しく思います。私も来年は小高区に帰りたいです。(70代以上)
- 私は生まれ故郷に未練がいっぱいです。知人、友人等皆のいる「小高」で生涯を終えたい。(60代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が29件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」、「借上げ住宅について」がともに12件、「住宅の購入について」が4件などとなっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- もう少し早い決断ができれば今までの住居に住みたかったという思いです。この年になり悲しい決断でもあります。同じ地区内に決めました。(40代)
- 南相馬の復興状況や自宅の状態を見ながらどこに住むか選択するつもりです。優先順位は、自分の年齢を考えてより便利で快適な所(自分の趣味的に)を考えたい。(50代)
- 住宅取得の目途が立たず平成30年4月以降はどうしたら良いのか困っています。(70代以上)

【復興公営住宅への入居について】

- 南相馬市原町区内に建築中の復興住宅には当選しました。その次のステップの連絡はまだです。引越しまで次の連絡が来てから2、3ヶ月はかかるそうなので、今もまだ来ないようなので、実際の引越は2017年の3月以降春くらいでしょうか。(40代)
- 今、郡山に住んでいますが、南相馬市の住所がある方にも、郡山市の復興住宅で住める様になるといいと思います。(40代)
- 子供と同居しているので復興住宅は収入の面で高額になるので迷います。それに避難指示解除後は申し込みできないようです。色々考えるとなかなか前に進めません。(60代)

【借上げ住宅について】

- 平成30年3月までの借上げ住宅契約期間終了も、私としては、あと2年位延長してもらいたい気持ちです。(50代)
- 借上げしていますが、これが自費となると年金暮らしの私達にはとても負担が重いです。全額とは言いませんが補助をお願いしたいと思います。(60代)
- JRが不通の為いわきの借上げ住宅が大変重要です。JRの開通(全面)まで借上げ期間の延長を是非共お願いします。(70代以上)

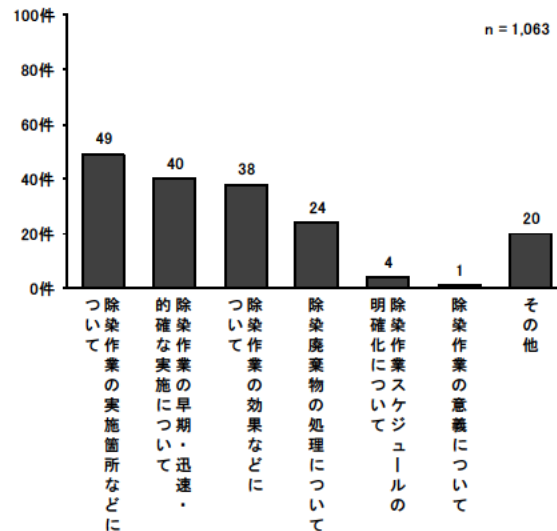
【住宅の購入について】

- 小高の自宅は借家だったのでいずれは家を持ちたいと考えていますが、土地、中古物件など聞き当ってはいるがどれも高く、すぐ決断できない状況です。(60代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の実施箇所などについて」が49件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が40件、「除染作業の効果などについて」が38件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[除染作業の実施箇所などについて]

- 家の周りが除染でききれいになりました。道路から離れている畑もやって頂けるのでしょうか？心配です。(60代)
- 来年4月の学校再開に合わせて息子達家族4人が帰って来る予定ですが、除染について、宅地に関しては大方大丈夫と思いますが、側溝など子供達が遊びそうな所が手つかずです。帰還の準備等もあり、すでに時々帰って来ますので早急に除染をしていただきたいとお願い申し上げます。(60代)
- 山菜、キノコ、タケノコはベクレルが非常に高いため食べられない(事故前は取って食べていた)。里山除染を実施してもらいたい。(60代)

[除染作業の早期・迅速・的確な実施について]

- 市町村によって除染のやり方とか違います。統一は出来ないのでしょうか？(40代)
- 竹を一部切ったようだが地面をはいでしまわないと除染とはいえない。土の入れかえをして欲しい。(50代)
- 生活圏の除染はほぼ終わり農地除染を今やっていますが、帰ったならば安心して野菜等を作れるようにしっかり除染して頂きたいです。(60代)

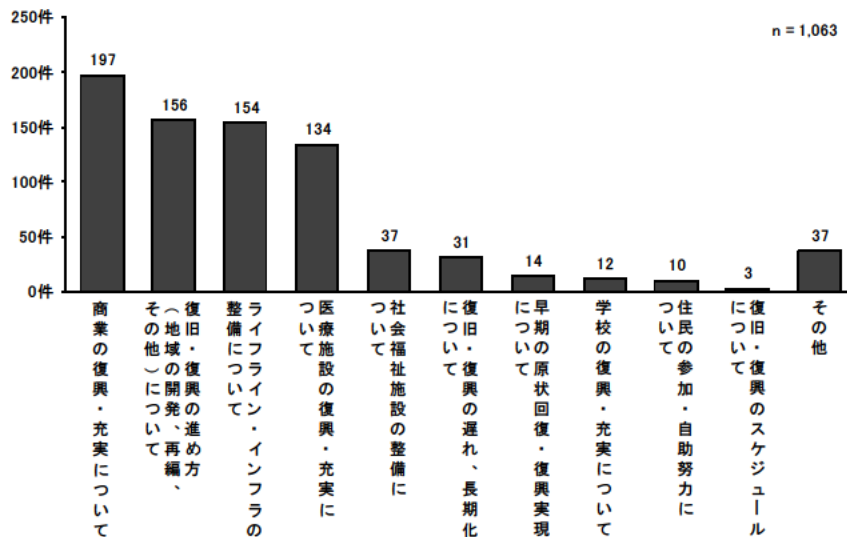
[除染作業の効果などについて]

- 除染の結果を、個々に正確に報告して(知らせて)ほしい。(60代)
- 自宅の除染は終了しているが、まだまだ線量の数値には不安がある。(70代以上)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「商業の復興・充実について」が197件と最も多く、次いで「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が156件、「ライフライン・インフラの整備について」が154件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[商業の復興・充実について]

- 商業施設の充実。若い人達や通りがかりの人が立ち寄れる様な魅力のあるもの。(50代)
- 買い物が容易に出来るスーパー等を作って欲しい。(40代)
- 生活するために必要なお店がほとんどありません。やっとコンビニが開店しましたが、それだけでは生活していきません。スーパー・ホームセンター・ドラッグストア・コインランドリー・薬局等々、原町まで行けば買物が出来ますが、むしろ原町まで行けという事なのかと思っています。(30代)

[復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について]

- 今後、何十年とかかるであろう本当の復興を住民の気持ちをくんで進めてほしい。除染をしたら終わりではなく、若い世代が生きづく故郷になってほしい。(40代)
- 若い世代の人達が住みやすくまた働きやすい自治体にしてほしい。(60代)
- 小高区の復興を考えるに地元企業（商業、福祉医療、工業等）への経済支援を強化する必要があると思う。人口が少ない中で採算が取れない状況では営業はしないと思う。このことは住民の帰還も遅らせ又は戻らない判断をする材料になる。(70代以上)

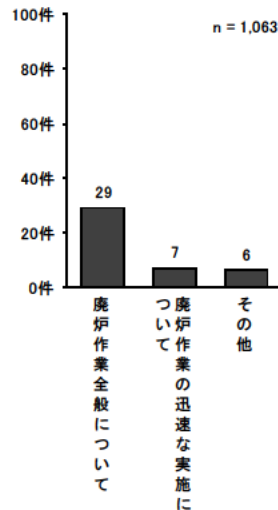
[ライフライン・インフラの整備について]

- 主要道路のみでなく、自宅に戻る為の狭い道路の整備をして欲しい（道路脇の木々の伐採等）。(60代)
- 年配の方々は交通手段も限られているので乗合バス（小型）などが欲しい。(60代)
- 六号線より海側は、水道が通ってないので、井戸水のみ。水道を通してほしい。(40代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が29件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が7件などとなっている。

<図表3-4-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[廃炉作業全般について]

- 原発廃炉頑張って下さい。早く安心できる生活をしたい。廃炉作業をきちんとしてもらうと、きっと戻る人が増えるはず。(70代以上)
- 廃炉を東電にまかせっぱなしにしないで県職員または市職員も常駐してもらいたい。(50代)
- 原発の廃炉について本当にできるのか疑問です。汚染水対策さえできていないのに…。(70代以上)

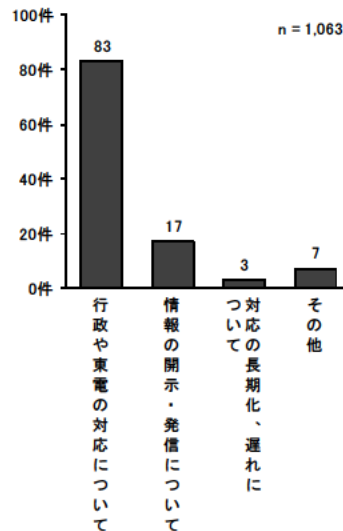
[廃炉作業の迅速な実施について]

- 未来ある子供達のためにも1日も早く原子力発電所の収束をして頂きたいと思っています。(50代)
- 原発の恐怖はもう嫌。メルトダウン箇所を早くなくして！(60代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が83件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が17件、「対応の長期化、遅れについて」が3件などとなっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政や東電の対応について]

- 国も自治体も本気でこの問題に向きあい心から住民の事を第一に考え『今』に至っていると信じています。その事をふまえ私たちも精一杯真剣に必死で現状と戦っています。(60代)
- 国、県、市は住民意向調査のアンケートを数回行っているが、まだ模索中なのかと思う。もっとリードして貰いたい。(50代)
- 事故のためにたくさんの方がたくさん辛い思いをしました。事故の当事者の東電にとっても大きな痛手でした。あやまちを二度と繰り返さないという強い思いを持って事故処理を立派にして下さい。それが一番の償いです。(70代以上)
- 国や自治体はもっと積極的に動くべきです。特に小高の場合は、少しも目に見えませんが。(50代)

[情報の開示・発信について]

- 月々に発行される公報・新聞をお届けいただき感謝いたしております。遠隔地に住んでいまでも住み慣れた南相馬市の状況がわかりホッとしております。今後も継続お願いいたします！(60代)
- 東京に住んでいるため連絡等では分からないことが多々あります。もっと情報がわかるような復興新聞のようなものでそちらの様子がわかればと思います。例えば、鉄道の復興のこと、宿泊施設の案内、バスによる交通網などインターネットの出来ない老人には、そちらの様子がわかりません。(70代以上)
- 個人的な情報がなかなか伝わってこない。例えば除染や家屋解体はどうなっているのか。全て待ちの姿勢です。(60代)

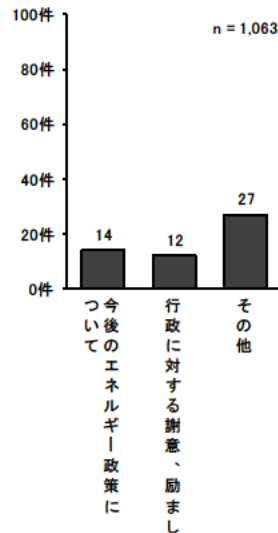
[対応の長期化、遅れについて]

- 7月12日に避難指示解除になったのににもかかわらず市営住宅の設備の修理が期日に終了してない。(50代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「今後のエネルギー政策について」が14件と最も多く、次いで「行政に対する謝意、励まし」が12件などとなっている。

〈図表3-4-11 その他についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【今後のエネルギー政策について】

- 自然エネルギーに対する考え方の拡充。自然エネルギー、特に太陽光発電の電力会社購入が先行不透明である。然るべき対応が待たれる。(50代)
- 原子力政策は行きあたりばったりでまったく主体性がなく、誰も責任感と正義感を持って政治、行政を行おうとしていない。今ある原子炉、放射性廃棄物をどうするのかきちんと道筋をつけるのが震災の一番の課題であり、使命である。これは福島第一原発周辺自治体は発信していくべきで目をそむけてはいけなと感じる。(40代)

【行政に対する謝意、励まし】

- 市の職員の方々や、多くの方々が復興のために頑張っておられ感謝の気持ちで一杯です。私共は何のお手伝いも出来ず申し訳ありません。(30代)
- 避難して以来南相馬市からはいろいろ心づかいいただき感謝している。連絡一つにしても手間のかかることをいちいちしていただき、自分は孤立していないという思いを強くもって暮らせた。(70代以上)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

南相馬市 住民意向調査

● 調査をお願いする方

・ご回答は、現在の世帯の代表者の方をお願いいたします。

● ご回答方法

- ・ご回答は、選択肢の中からあてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容もご記入ください。
- ・ご回答は、記入する日時点の状況について、お答えください。
- ・調査票は記名式でお願いしております。
- ・ご回答いただいた内容については、今後、より詳細にお聞きする場合がございます。

➤ 個人情報について

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、南相馬市、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

- ・ご記入済みの調査票は、12月5日(月)までに、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください(切手は不要です)。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-901-841

[設置期間：11月22日(火)～12月5日(月)
10時～17時(土・日・祝を除く)]

福島県

福島県全般のことについて

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
避難地域復興局 生活拠点課
TEL 024-521-8617

南相馬市

原町区のことについて

〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町2丁目27番地
総務課 市民活動支援係
TEL 0244-24-5222

小高区のことについて

〒979-2195 福島県南相馬市小高区本町2丁目78番地
小高区役所 地域振興課
TEL 0244-44-2112

全ての方に伺います。(問1～問5)

問1 あなたの氏名、性別、年齢について教えてください。

氏名 現在の世帯の代表者の方	性別	年齢
	番号を○で囲んで下さい。	ご回答時点の年齢を記入してください。
	1. 男 2. 女	歳

問2 現在のあなたの職業を教えてください。(○は1つ)

1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済)	6. パート・アルバイト
2. 自営業・会社経営者(休業中)	7. 無職(職を探していない)
3. 会社員	8. 無職(職を探している)
4. 団体職員	9. その他 [具体的に]
5. 公務員	

問3 震災当時にお住まいだった居住地を、以下から教えてください。(○は1つ)

小高区中部	1. 一区	2. 二区	3. 三区	4. 四区	5. 五区
	6. 小高	7. 片草	8. 吉名	9. 岡田	10. 川原田
	11. 大井	12. 塚原			
小高区西部	13. 飯崎	14. 角間沢	15. 小谷	16. 摩辰	17. 南鳩原
	18. 北鳩原	19. 羽倉	20. 大富	21. 金谷	22. 川房
	23. 大田和	24. 小屋木			
小高区東部	25. 女場	26. 角部内	27. 上蛭沢	28. 下蛭沢	29. 浦尻
	30. 下浦	31. 行津	32. 上浦	33. 神山	34. 上耳谷
	35. 下耳谷	36. 泉沢	37. 福岡	38. 村上	39. 井田川
原町区	40. 雫	41. 小浜	42. 下江井	43. 小沢	44. 堤谷
	45. 江井	46. 米々沢	47. 大甕	48. 高	49. 小木迫
	50. 鶴谷				

問4 震災当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

1. 持ち家	5. 家族のどなたかのお住まい・実家
2. 民間賃貸住宅	6. 親戚・知人宅
3. 公営住宅	7. その他 [具体的に]
4. 社宅・官舎等	

問5 現在、あなたはどちらにお住まいですか。(○は1つ)

1. 震災当時の住居に戻った ⇒ 問9へ
2. 震災当時の住居以外 ⇒ 問6へ
3. 震災当時の住居とそれ以外の住居を行き来している ⇒ 問6へ

問5で「2. 震災当時の住居以外」又は「3. 震災当時の住居とそれ以外の住居を行き来している」と回答した方に伺います。

問6 今後の定住先について、どのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 震災当時の住居に住みたい ⇒ 問7へ
2. 震災当時の住居ではないが、
同じ地区(小高区・原町区)に住みたい(住んでいる) ⇒ 問7へ
3. 南相馬市内(震災当時の地区以外)に住みたい(住んでいる) ⇒ 問7へ
4. 現時点では、まだ判断がつかない ⇒ 問8へ
5. 南相馬市以外の場所に住みたい(住んでいる) ⇒ 問8へ

問6で「1. 震災当時の住居に住みたい」「2. 震災当時の住居ではないが、同じ地区(小高区・原町区)に住みたい(住んでいる)」「3. 南相馬市内(震災当時の地区以外)に住みたい(住んでいる)」と回答した方に伺います。

問7 住みたい(住んでいる)時期についてお聞かせください。(○は1つ)

1. 既に住んでいる。 ⇒ 問9へ
 2. 1年以内に住みたい
 3. 3年以内に住みたい
 4. 5年以内に住みたい
 5. 5年後以降
- } ⇒ 問7-1へ

問7で「2. 1年以内に住みたい」「3. 3年以内に住みたい」「4. 5年以内に住みたい」「5. 5年後以降」と回答した方に伺います。

問7-1 問7で選択された「住みたい時期」の理由についてお聞かせください。(○はいくつでも)

1. 新築やリフォーム等による住まいの確保が可能となる時期であるため
2. 学校の入学、卒業など子供の学校の状況に応じた時期であるため
3. 近所の方と帰る時期を相談し決めているため
4. 借り上げ住宅など各種支援の終了が見込まれる時期であるため
5. その他(具体的に

問6で「4. 現時点では、まだ判断がつかない」「5. 南相馬市以外の場所に住みたい（住んでいる）」と回答した方に伺います。

問8 現時点では、まだ判断がつかない理由や、南相馬市以外に住みたい（住んでいる）理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

【原発・健康不安に関わるもの】

1. 放射線量の低下、除染の効果に不安があるから
2. 放射線による人体への影響に不安があるから
3. 原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）に不安があるから
4. 中間貯蔵施設建設に遅れがあるから
5. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【市内の復旧・復興状況に関わるもの】

6. 南相馬市に戻っても仕事がなさそうだから
7. 南相馬市での事業の再開が難しいから
8. 営農などができそうにないから
9. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
10. 交通機関に不安があるから
11. 医療環境に不安があるから
12. 介護・福祉サービスに不安があるから
13. 教育環境に不安があるから
14. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

15. すでに恒久的住宅を取得したから
16. 周囲の人も戻りそうにないから
17. 津波被害により災害危険区域に指定され自宅に戻れないから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活の便利がいいから
21. 家族間での意見が分かれており、帰還意向について回答できない
22. その他

（具体的に

→ P5 問9へ

全ての方に伺います。

問9 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

- P6の「ご家族の現在の状況について」にご回答いただき、本調査は終了となります。
- また、同封の「空き家・空き地をお持ちの方へ」もご覧ください。

ご家族の現在の状況について

ご家族の現在の状況について、表1～表3よりご回答ください。回答は、個人ごとにご記入ください。

	氏名	世帯主との続柄	性別	年齢	今後の住まいの意向	住みたい時期
		表1から選んでください(1つ)	番号を○で囲んでください	現在の年齢を記入してください	表2から選んでください(1つ)	表3から選んでください(1つ)
記入例	南相 花子	[1]	1.男 ②女	[30]	[3]	[1]
1人目		[]	1.男 2.女	[]	[]	[]
2人目		[]	1.男 2.女	[]	[]	[]
3人目		[]	1.男 2.女	[]	[]	[]
4人目		[]	1.男 2.女	[]	[]	[]
5人目		[]	1.男 2.女	[]	[]	[]
6人目		[]	1.男 2.女	[]	[]	[]
7人目		[]	1.男 2.女	[]	[]	[]

表1 世帯主との続柄	1. 妻・夫 2. 子 3. 孫 4. 兄弟・姉妹 5. 父・母 6. 祖父・祖母 7. その他
----------------------	--

表2 今後の住まいの意向	1. 震災当時の住居に住みたい(住んでいる) 2. 震災当時の住居ではないが、 同じ地区(小高区・原町区)に住みたい(住んでいる) 3. 南相馬市内(震災当時の地区以外)に住みたい(住んでいる) 4. 現時点では、まだ判断がつかない 5. 南相馬市以外の場所に住みたい(住んでいる)
------------------------	--

表3 住みたい時期 表2で1～3を選んだ方のみ回答	1. 既に住んでいる 2. 1年以内に住みたい 3. 3年以内に住みたい 4. 5年以内に住みたい 5. 5年後以降
--	--

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済みの調査票を入れて、
12月5日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**南相馬市 住民意向調査
報告書**

平成29年3月

復興庁 福島県 南相馬市

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

